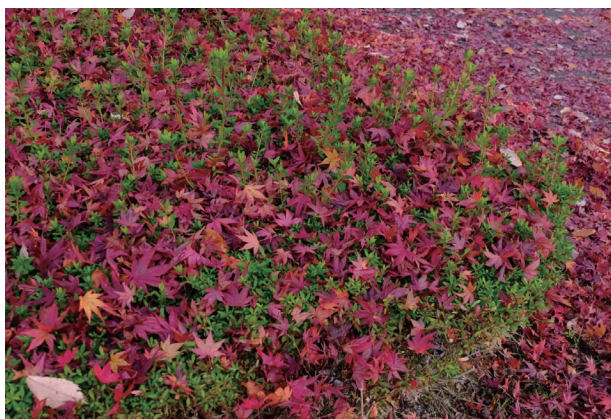


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2024 年 *11-12*

「わたしたちの高い召し」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「この準備をしなければならない」 3

朝のマナ

「わたしたちの高い召し」 4

Our High Calling

力を得るための食事

「たまねぎ餅」 68

レシピ

お話コーナー

「最初の赤ちゃん (I)」 70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2024 年 10 月 6 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

この準備をしなければならない

聖所と神の律法の不変性についての光を受けた人々は、彼らが理解した真理の体系の美と調和を見て、喜びと驚きに満たされた。彼らは、非常に貴重なものに思われたその光を、すべてのキリスト者たちに伝えたいと願った。そして、それが喜んで迎えられれるものと信じて疑わなかった。しかし、人々をして世と異なつたものにする真理は、キリストの弟子であると称する多くの者に、歓迎されなかった。第四条への服従は犠牲を要求するものであり、大部分の者はこれに背を向けたのであった。

安息日の義務が示されたとき、多くの者は、世俗の立場から考えて、次のように言うのであった。「…七日目を守る小さな団体が、…いったい何を成し遂げようというのか？」…

このような議論に反論するには、ただ聖書の教えと、各時代において主がご自分の民を扱われた歴史とを引用すればよかった。神は、神の声を聞いて従う者、必要ならば俗受けのしない真理を語る者、広く行なわれている罪を譴責することを恐れない者を用いて働かれる。…知恵の根源である神と個人的につながっている者だけが、聖書を理解し説明することができる。(各時代の犬争闘下巻 177-180)

神の聖なる言葉は尊ばれていない。それを人生の規準として、真に信じる者はほとんどいない。…キリスト者は、やがて世界に、圧倒的驚きとして起ころうとしている事件の、準備をしなければならない。そして彼らは、神の言葉を忠実に研究して、その教えに生活を調和させようと努力することによって、この準備をしなければならない。永遠に関する恐るべき問題は、空想的でただ言葉と形式だけの宗教以上のものを要求している。…生ける神を叫び求め、神の臨在を熱望している者がたくさんある。彼らの心に神の言葉を語ろう。…

プロテスタントと呼ばれた改革者たちは、福音の光を世界に照らすために、神が彼らを召されたことを感じた。…犬争闘のこの最後の戦いに参加しているわれわれは、初期の改革者たちのように、われわれに託された任務に忠実であろうか。(国と指導者下巻 226-228)

わたしたちの高い召し

Our High Calling



11-12 月

その代価を勘定したことがあるか

「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33 下)

世の贖い主は、ご自分に従う者を戦いに召され、その戦いの計画をお示しになる。そしてその価を勘定するようにお命じになる。このお方は、ご自分の軍隊には力に秀でている御使いたちがおり、ご自分を信じる人々が雄々しく戦うことができるようにすると保証しておられる。自分たちの力ではなく全能の神の力によって、一人で千人を追い、二人で万人を破る。……主の万軍の将が彼らと共におられ、軍隊の指揮をとり、彼らを勝利へと導いておられるのである。

彼らは人間の持っている弱さのゆえに、また自分たちの罪深さのゆえに暗黒の勢力のおびたしい軍団を見て恐れおののく。しかしまた、救いを受け継ぐべき人々に奉仕する準備の出来ている神のみ使いたちを見上げるとき、彼らは喜ぶことができる。主の万軍の将が自分たちを導いて、生来の敵と霊的な敵に対するあらゆる闘争で自分たちを前進させてくださることがよくわかるとき、喜ぶことができる。……あなたの指導者は勝利者であられる。勝利へと進撃する方である。……

わたしたちが、一歩たりとも自分自身の有限な力で進むがままに放っておかれることはないというこれらの保証は、なんと尊いことであろう。なぜなら、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と主は仰せになったからである(ヘブル 13:5)。わたしたちは目に見えない軍勢と戦っている。目には見えない聖天使たちは悪の全列を見渡しているので、助けはすぐそばにある。わたしたちは必要なものを与えられるだけでなく、有利な立場に置かれる。……

「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」とペテロに話された言葉は、あらゆるクリスチャンに向かって言われている(ルカ 22:31)。わたしたちが一人で取り残されていないことを神に感謝する。これがわたしたちの安全である。キリストがご自分のなされたとりなしによって、誘惑への備えをしてくださった者に、サタンは永遠の破滅をもって害を与えることはできない。なぜならだれも敵の支配下に陥る必要がないように、あらゆる魂のためにキリストにあつて恵みが与えられ、逃れの道が備えられているからである。(ユース・インストラクター-1894年12月20日)

11月2日

あなたは精練する者の火に耐えるつもりはあるか

「こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精練されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。」(ペテロ第一 1:7)

黄金は火で精練されるが、それは不純物から精練することが出来るためである。しかし試練によって精練される信仰は精練された金よりも尊い。そうであれば試練を道理にかなった方法として見上げよう。試練を通してつぶやきや不満が出ることをないようにしよう。試練を逃れようとして過ちを犯さないようにしよう。わたしたちは試練のときに神とこのお方の約束にすがらなければならない。

ある人がわたしにこう尋ねたことがある、「あなたが試練のもとにあるとき、たまには失望しませんか」。それでわたしは答えた、「はい。もしも失望によって悲しみ、落胆することをあなたが意味しているのであれば」。「あなたはあなたの気持ちをだれかに話しませんでしたか」。「いいえ。沈黙するとき、舌にくつわをはめるときはあります。そしてわたしは自分が交際している人々に憂鬱の影をもたさなために、疑いや心の闇についての言葉は一言も発しないと決心しています。わたしは精練するお方の火に耐えよう、わたしが焼き尽くされることはない、と自分に言い聞かせています。わたしが話すとき、その言葉は光についてです。信仰と神にある希望についてです。わたしの救い主であるキリストの義について、慈しみについて、愛についてです。その言葉は、他の人の思いを天と天の事柄に向け、天におけるわたしたちのためのキリストの働きと、地上でのこのお方のためになすわたしたちの働きに向けるためのものです」。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年2月11日)

精練する炉は、不純物を取り去るためのものである。精練するお方があなたのうちにご自分のかたちが完全に反映しているのをご覧になると、このお方はあなたを炉から取り出される。あなたは焼き尽くされるため、あるいはあなたの精練にとって必要である以上に火のような厳しい試練に耐えるために放っておかれることはない。しかし神のかたちを反映するために、精練するお方があなたのために選ぶ過程に服従することはあなたにとって必要である。それはあなたが清められ、純潔にされ、あらゆるしみと汚れが取り除かれ、—あなたのクリスチャン品性にしわひとつ残らないためである。あなたの内に成就する神の御旨と働きを選ぶよう、主があなたを助けてくださるように。……見上げなさい。イエスは生きておられる。イエスは愛しておられる。イエスは憐れみ、もしもあなたがこのお方のところに来て、あなたの重荷をこの方の上に置くら、このお方は気苦労と困難というあなたの重荷すべてと共にあなたを受け入れてくださる。このお方はご自分を信頼する人々を放っておいたり見捨てたりすることは決してなさらない。(手紙 2、1870 年)

苦しみを通してキリストと共に喜ぶ

「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一 4:12, 13)

わたしたちがとても熱心に望み、そのためにとても熱心に祈る聖化は、わたしたちがほとんど期待していない方法で、真理を通して、また神のみ摂理によってもたらされる。わたしたちが喜びを願うとき、そこに悲しみがあるのを見る。わたしたちが平和を期待する時、しばしば不信や疑いを持つ。なぜなら自分が避けることの出来ない試練の中に追い込まれている自分を見出すからである。この試練の中にわたしたちの祈りに対する答えがある。精錬されるために、苦悩の火が頭上で燃え、またわたしたちの意志は神のみ旨への一致へと至らなければならない。……神はわたしたちが切望している祝福の対象にふさわしくなる前に、わたしたちにとって必要不可欠な訓練の過程の下に置くことがもっとも良いと知っておられる。

わたしたちは落胆し、疑い、自分の祈りが気づかれていないと考えてはならない。もっとしっかりとキリストに寄りすがり、神ご自身の方法でわたしたちの祈りに答えてくださるために、自分の問題をこのお方に委ねよう。神はわたしたちが印をつけている水路を通じて祝福を与えて下さるとは約束しておられない。……神のご計画は、わたしたちがそれを常に識別できるわけではないが、いつも最上のものである。クリスチャン品性の完全さは、労苦、戦い、克己を通してのみ得ることができる。わたしたちはいつもこのことを期待しない。またキリストのかたちに一致することができるために、わたしたちに必要な、痛みを伴い、引き延ばされる精錬の過程のことを考えない。神はしばしばわたしたちがほとんど期待していない方法で祈りにお答えになる。神はわたしたちの心の中に何があるかを明らかにするために、最も苦しい立場に置かれる。クリスチャンの恵みの発達を促進するために、神はわたしたちが生き生きとした任務の中で信仰を保つために、わたしたちの側での増し加わる努力を要求する状況に置かれる。

神の賜物一神の御霊の恵みがどれほど計り知れないほど尊いものであるかを思いに抱こう。そうすればわたしたちは試練、試す過程がどれほど痛みを伴い、わたしたちをへりくだらせても、それからしりごみしない。(手紙 9、1873 年)

11月4日

永遠に続く契約のしるし

「にじが雲の中に現れるとき、わたしはこれを見て、神が地上にあるすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた永遠の契約を思い起こすであろう。」(創世記 9:16)

しばらく前、わたしはかつて見た中で最も燦然とした虹を見る機会に恵まれた。わたしたちはしばしば画廊を訪れて、画家の巧みな技術によって表現されている神の偉大な約束の虹の絵を見て感嘆する。しかしここでわたしたちは、偉大な主なる芸術家によって完全に混ぜ合わされたさまざまな色彩—紅、紫、青、緑、銀、金を見た。天空にかけられたこの燦然たる絵を見上げたとき、うっとりとした。

人に対する神のみ約束の印、しるしであるこの虹を見る時、神の怒りの大嵐が二度とわたしたちの世界を荒廃させることはないことを、有限な目以外の目がこの燦然たる光景を見ておられることを、熟考する。天使は人に対する神の愛のこの尊いしるしをじっと見るとき、大いに喜ぶ。世の贖い主がこれをごらんになる。なぜならこの虹が人に対する約束のしるし、あるいは契約として天に現れるようにと作られたのは、ご自分の尽力によるからである。神ご自身が雲の中に虹をご覧になって、ご自身と人との間の永遠に続く契約を思い起こされる。……虹は地球を取り囲むキリストの愛を示し、神と人を結びつけ地上と天をつなぎつつ、最も高い天にまで達する。

わたしたちはその美しい光景をじっと見るとき、神にあって喜ぶことができ、神ご自身がご自分の契約のこのしるしを見ておられることを確信することが出来る。そして神がそれをご覧になるとき、虹が与えられた地上の子らを思い起こされることを確信することが出来る。彼らの苦悩、危難、試練はこのお方から隠されてはいない。わたしたちは希望をもって喜ぶことができる。なぜなら神の契約の虹が頭上にあるからである。神はご自分の保護の下にある子らをお忘れになることは決してない。「わたしは雲の中に虹を見て、あなたがたを思い起こす」と神が言われたとき、神の特別な愛と優しさ、このお方の計り知れないへりくだりを理解するのは限りある人間の思いにとってなんと難しいことであろうか。

ああ、神を忘れることはわたしたちにとって何とたやすいことであろう。一方神は決してわたしたちをお忘れにならない。このお方は憐れみをもって毎時間わたしたちを訪問してくださる。(ビュー・アソド・ヘラルド 1880 年 2 月 26 日)

神は沈黙を通してお語りになる

「あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。」（黙示録 1:9）

ヨハネがパトモス島に流されるのを許すことによって、キリストはご自分の弟子が教会の啓蒙のために、最も尊い真理を受けることのできる場所に彼を置かれた。イエスは彼を孤独の中におかれたが、それはこの真理を受けるために彼の耳と心を聖化するためであった。……ヨハネの敵の迫害は恵みの手段となった。パトモス島はよみがえられた救い主の栄光によって光り輝いた。……追放された孤独な者にとってそれは何という安息日であったことだろう。……彼はイエスのことをこれほどたくさん学んだことはなかった。これほど高められた真理を聞いたことはなかった。

神の働きに携わる者は、しばしば生涯の活動が働きの進展のために必要不可欠であると考えている。語り、行うすべてのことに自己が混じる。……働き人は自分が必要な者であるとみなす。神は「この哀れな魂はわたしとわたしの力とを見失っている。わたしは彼の心の中にわたしの光とわたしの活気づける力とを吹き込まなければならない。彼に天来の目薬を塗ることによって彼に真理を受け入れる準備をさせなければならない。彼はあまりにも多くのものを見て、自分の目をわたしに固定していない。……」

主はときどき、人間にとっては痛みを伴う過程によって、魂に訪れになる。このお方は、働き人が自分の清められていない性質による失敗や弱さを徳とみなし、そうすることによって自己称揚で破滅することがないように、魂を自尊心と自己過信に対して防備せざるを得ないのである。

もしも現代の偉大な真理を信じると主張する人々が、聖書を探ることにより、熱心に祈ることにより、また信仰を実践することによって自分を準備させたいのであれば、それほどまでに切望している光を受ける場所に自分をおく。……神の御前における沈黙の雄弁がしばしば必要不可欠である。もしも思いがいつも興奮状態にあるなら、耳は、主がご自分の信じている者に伝えたいと思っておられる真理を聞くことを妨げられる。キリストは、ご自分の子らの注意をひきつけていることから彼らを引き離すが、それは彼らがご自分の栄光を見ることができるとのである。（原稿 94、1897 年）

11月6日

天国に入るに必要な訓練

「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう。」(ヨブ記 23:10)

主はご自身を信頼する者のために働かれる。忠実な者は尊い勝利を得、尊い教訓を学ぶ。試練と誘惑のときに最大の強みとなるような尊い経験を得る。すべてのことにおいて自分の手柄にせず神に栄光を帰す人々は、ますます神の祝福を託される。主は人々のただ中でご自分をあがめる人々によって、大いなるものとされる。忍耐をもって耐えている試練、忠実な者が遭遇するテストは、彼らが責任を負う価値があることを証明する。それゆえ神は彼らを神のみ心を行う者としてくださる。……

神のみ摂理のうちにある地上の闘いは、天の宮廷にふさわしい品性を発達させるために、ぜひとも必要な訓練をほどこす。わたしたちは王家の一員、神の息子となるべきである。そうすれば神を愛し、このお方のみ旨に自分自身を服従させる人々に「万事を益となるようにしてくださる」。

わたしたちの神は必要なときにはいつでも永遠に居合わせて下さる助け手である。このお方はわたしたちの心のもっとも奥深くにひそむ考え、わたしたちの魂の意図と目的を完全にわかっておられる。わたしたちが困惑しているとき、自分の悩みをこのお方に打ち明ける前ですら、わたしたちを救出するために準備をしてくださっている。わたしたちの悲しみが気づかれないことはない。このお方はいつもわたしたちよりよくご存知であり、まさにご自分の子らの益のために何が必要かをご存知である。そして、もしもわたしたちが、神がご覧になるように自分の心をはっきりと見定めることができ、自分たちの必要と危険を見ることができれば、自ら導かれることを選ぶような方法で導いてくださる。しかし有限な者はめったに自分自身を知らない。彼らは自分の弱さがわからない。……神は彼らが自分のことを知っている以上に彼らのことをよくご存じであり、彼らをどのように導くかを理解しておられる。……

もしもわたしたちが神を信頼し、このお方に自分の流儀を委ねるならあらゆる邪悪な激しい感情に、神なる型の品性に似ていない品性のあらゆる特徴に勝利を得る結果となる道に、わたしたちの歩みを導いてくださる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888年5月25日)

神は何が最善であるかを知っておられる

「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(ヘブル 12:11)

神はわたしたちにとって何が最善であるかを知っておられる。わたしたちが服すべき特別な訓練とは、もっとも悪くもっとも嫌な品性の特徴を引き出す訓練ではなく、キリストの柔和とうるわしさであり、このお方の尊い恵みを発達させることである。

あなたはキリストのようになることをキリストの学校で学ぶ必要がある。神はご自分の恵みを一人一人の必要に合わせて適合させてください。「わたしの恵みはあなたに対して十分である」(コリント第二 12:9)。あなたの重荷がだんだん重くなっていく時、見上げ、信仰によってあなたの力強い助け主イエスのみ手にもっとしっかりとすがりつきなさい。終りの時代に危難のただ中で困難が神の民の周りにたちこめるとき、わたしたちをイエスの血の流れるわき腹近くに、もっと近くに引き寄せつつ、キリストはずっとわたしたちのそばを歩くようにと、ご自分の天使をお送りになる。そしてもっと大きな試みがくると、小さな試みは忘れ去られる。

.....

あなたの品性が天の書に記録されている事を覚え、あなたは純潔で、真実、また堅固でいなければならない。……クリスチャンの忠実、是認される行動の麗しい生活を生きることの出来ない状況、場所、困難そして苦難はない。……勝利は試練を避ける―試練を逃れること―に見出されるのではなく、勇敢に試みを忍耐強く耐え忍ぶ中に見出される。(手紙 29, 1884 年)

だれでも試練に会う。……もしもあなたがイエスを仰ぎ見、このお方を自分の個人的な救い主として信じるなら、あなたはすべての試練を切り抜け、これらの試練を忍耐をもって耐え忍ぶことによって強くなり、次のテストや次の試練に耐えることができるようになる。(手紙六、1893 年)

神がお与えになる大いなる祝福と同じく、このお方がご自分の教会を支配なさる規律の中にあるこのお方の慈愛をはっきり見るのを妨げるのは、わたしたちの視野が狭いからである。失望と混乱のときはいつでも、神はご自分の民にとって確かな避け所である。このお方の保護の影で、彼らは安全にこのお方の道を歩むことができる。彼らを精錬するために計画された苦悩の中で、福音の力が彼らの慰めとならなければならない。このお方の確かなみ言葉のうちに彼らは砦を持つ。(手紙 54、1908 年)

11月8日

すべてのものは共に働く

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ 8:28)

神の賢明な訓練に屈服した心は、このお方のみ摂理のすべての取り計らいに信頼する。……もしも神がみな自分のやりたいようにするのを許されるなら、うぬぼれと自尊心が助長され、謙遜という恵みは心の中で大切にされなくなる。真の教養は本当に謙遜な人々にだけ可能である。

わたしたちがどうしてもしたいと望むことのできるものは、神が経験という学校でわたしたちに立証なさった後で現実になる。そしてわたしたちのもっとも大きな祝福のただ中で、行う特権を与えられなかったことが数えられる。しかし、それは、わたしたちをもっと高い働きへと準備させるよう計算された最高のものを行うことから道をふさぐものである。現実の生活での明白な地味な義務は、わたしたちが行うのにふさわしくない事柄をするために実りのない努力をするのを防ぐために不可欠である。わたしたちのための神のご計画が完全な成功を見るようにと、わたしたちの工夫した計画がしばしば失敗する。ああ、わたしたちが、人生のもつれや神秘、すなわちこれほど悩ませ、わたしたちの虫のいい希望をくじいてきたことが説明されるのは、来世においてである。答えられなかった祈りや何かに対する希望こそ、わたしたちにとってもっとも大きな祝福の一つであったことを、知ることになる。(手紙 2、1889 年)

わたしたちはこの世で日光ばかりを期待することはできない。黒雲や嵐がわたしたちの周囲に集まるので、最後に光を見たところに自分の目を向け続ける準備をしていなければならない。その光線は隠されているかもしれないが、それはまだ続いており、まだ雲の向こうで輝いている。待ち望み、見張り、祈り、信じるのは、わたしたちの仕事である。雲が消え去ったあと、日の光を前よりも一層大事に重んじるようになる。もしわたしたちが光の中でと同じように闇の中でも神を信頼するなら、神の救いを見るのである。(手紙 23、1870 年)

すべての試み、すべての苦悩、すべての平安、すべての安全、健康、希望、命、そして成功は神のみ手の中にあつて、神はそれらをすべてご自分の子らの善のために支配することがおできになる。神の賢明な目的と無限のみ旨に屈服して、自分たちの願い事を従わせつつ、神にどんなことでも何でも求める嘆願者となるのは、わたしたちの特権である。(原稿 1、1867 年)

見えないものに目を注ぐ

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」(コリント第二 4:17, 18)

もしもわたしたちの思いが地上の事柄ではなく、永遠の事柄にとまっているなら、神の無限の力のみ手をつかむ。そうなれば何がわたしたちを悲しませることが出来ようか。……

わたしたちはサタンの力の餌食になるがままでいる必要はない。……神の子らは、彼らと神との間にサタンが割り込むことを許してはならない。もしもサタンがそうするのをあなたが許すなら、サタンは、あなたの悩みは最も耐え難いものであり、どのような人間も負ったことのないもつとも痛みを感じる悩みであると、あなたに言う。サタンはあなたの目の前に拡大鏡をおいて、あなたを失望で苦しめるためにあらゆることを誇張したかたちで示す。……神のみ言葉をあなたの勧告者としてつかみ、あなたの疑いぶかい魂を神のみ前にへりくだらせ、悔い改める心で「わたしはここにわたしの重荷をおろします。わたしはそれを負うことはできません。それはわたしにとって重すぎます。わたしはそれをわたしの憐れみ深い贖い主の足もとにおきます」と言いなさい。……

サタンがあなたを誘惑するとき、疑いや暗闇の一言ももらしてはならない。あなたはだれにあなたの心を統治させ、あなたの思いを支配させるかを選ぶことが出来る。もしもあなたが邪悪な者の暗示に心の戸を開くことを選ぶなら、あなたの思いはたちまち不信と反抗的な疑問で満たされる。あなたは自分の感情を徹底的に話すことはできるが、あなたが口にするあらゆる疑いは、他の人の命の中で発芽し、実を結ぶ種である。だからあなたの言葉の影響を減らすことは不可能になる。あなたは誘惑の時やサタンのわなから回復することができるかもしれないが、あなたの影響によって揺り動かされたほかの人々は、あなたが暗示した不信から逃れることはできない。わたしたちが周囲の人々に霊的力強さと啓発を与えることだけを話すというのは何と大切なことであろうか。見たことはないけれどわたしたちが愛することのできるイエスに魂を引き上げるよう努力しよう。そして口に言い表せない喜びと満ち満ちた栄光に満たされよう。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1890年2月11日)

11月10日

キリストから引き離すことの できる力はない

「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。」(ローマ 8:35)

イエスとの結合の確証は、まさかのときになんと尊いことであろう。……「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか、患難か」一否、なぜなら、これこそキリストだけがわたしたちの唯一の避け所であるとわたしたちに感じさせ、わたしたちは隠れ場を求めてこのお方のところへ逃れるからである。「苦悩か」一否、このお方はわたしたちの慰めだからである。「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。神はいかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さ」る、とわたしたちは言うことができる(コリント第二 1:3, 4)。

では「迫害か」一否、「義のために迫害されてきた人たちはさいわいである。天国は彼らのものである」(マタイ 5:10)。では「飢えか」一否、わたしたちには神の御約束があるからである。一「飢饉の時には、あなたをあがなって死を免れさせ」(ヨブ 5:20)。……「飢饉の日にも飽き足りる」(詩篇 37:19)。イエスのみもとに逃れて、わたしたちは完全に飽き足りる。では「裸か」一イエスが次のように言われるのを聞きなさい、「富む者となるために、わたしから火で精練された金を買ひ、またあなたの裸の恥をさらさないため身につけるように、白い衣を買ひなさい」(黙示録 3:18)。……「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである」(黙示録 3:5)。……

では「危難か」一否、パウロはキリストの愛からわたしたちを離れさせるのは危難によるのではないことを経験で知っていた。……「川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い」(コリント第二 11:26)。「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である』」(コリント第二 12:9)。……では「剣か」……剣は、魂を殺すことはできない。なぜなら、わたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠されているからである。

ここでわたしたちは「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか」と、パウロとともに尋ねることができる。そして「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」と答える(ローマ 8:38, 39)。(手紙 25、1892 年)

悩みの厳しい試練

「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される。」(エレミヤ 30:7)

罪から自由にされる道は、自己の十字架と、闇の権力との争闘を通る。だれ一人として自分たちの前途にあるヤコブの悩みの時に直面しなければならない厳しい試練を考えて、落胆しないようにしよう。彼らはその日のためにではなく、今日のために、真剣にまた必死に働くべきである。わたしたちに欠乏しているものは、キリストのうちにあるがままの真理の知識を今持つこと、そして個人的経験を今持つことである。この閉じようとしている尊い猶予の期間に、わたしたちは得るべき深い、生ける経験をする。このようにしてわたしたちは悩みの時に自分の救出を保証する品性を形づくる。

悩みの時は、キリストに似た品性が明らかになる厳しい試練の時である。それによって、神の民がサタンやその誘惑と断絶するよう意図されている。最後の闘争は神の民にサタンを彼の真の性質、すなわち残酷な暴君として示す。そしてそれによって、他のなにものもできないことが彼らのためになされる。すなわち彼らの愛情からサタンを完全に根こそぎにするのである。なぜなら、罪を愛し、大切にすることはその創始者、キリストの大敵を愛し、大切にすることだからである。彼らが罪の言い訳をし、品性の邪悪さに執着するとき、彼らは自分の愛情の中でサタンに場所を与え、彼に敬意を払っている。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 8 月 12 日)

全天は人に関心を持っており、彼の救いを強く望んでいる。これはまた、個人個人との神の交わりすべてにおける大いなる目的である。……天の万軍にとって、邪悪な影響のとりこから自由になろうと思う人が非常に少ないこと、また自分たちの救いという偉大な働きで、キリストと一致して自分の力をすべて働かせるのをいとわぬ者がほとんどいないことは、もっとも不思議に思うことである。もしも人々が、自分たちを苦い胆汁と罪惡のきずなの中に閉じこめるためになす大欺瞞者の働きを目の前にあらわに見ることができるなら、どれほど熱心に闇のわざを放棄し、どれほど用心深く誘惑に屈しないように防御し、どれほど注意深く自分の内の神のかたちを傷つけるあらゆる欠点をさぐり、取り除くことであろう。どれほど彼らはイエスの許へ押し進み、そして、もっと穏やかで、もっと親密で、もっと幸福な神との歩みを求めて、なんと熱心な嘆願が天に上ることだろうか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 8 月 12 日)

宝石か、あるいは小石か

「万軍の主は言われる、シャルテルの子、わがしもべゼルバベルよ、主は言われる、その日、わたしはあなたを立て、あなたを印章のようにする。わたしはあなたを選んだからであると、万軍の主は言われる。」(ハガイ 2:33)

クリスチャンはキリストの宝石である。彼らはこのお方の麗しさという光を発散しながら、このお方のために明るく輝くべきである。彼らの光沢は彼らが受ける磨きにかかっている。彼らは磨かれるか、あるいはそのまま磨かれずにいるかを選ぶことができる。しかし主の宮に場所を占める価値があると宣言される者はだれでも磨きの過程を受けなければならない。主が与える磨きがなければ、彼らは普通の小石ほど光を反射することはできない。

キリストは「あなたはわたしのもの、わたしはあなたを買い取った。あなたは今はごつごつした石である。しかし、もしもあなたがわたしの手にあなたの身を任せるなら、わたしはあなたを磨きあげ、あなたを輝かせる光沢はわたしの名に名誉をもたらす。だれにもわたしの手からあなたを奪い取らせはしない。わたしはあなたをわたしの特別な宝にする。わたしの戴冠式の日に、あなたはわたしの喜びの冠を飾る宝石となる」と、人に言われる。

神なる働き人は、価値のない材料には時間をおさきにならない。ただ価値のある宝石だけを、荒い角をすべて切り落とし、宮の建物のために刻まれる。この過程は厳しく、苦しい。人間の自尊心を傷つける。キリストは、うぬぼれている者が完全だとみなしている経験にナイフを深く入れ、品性から自己高揚の思いを取り去る。このお方は石の余分な表面を切り取り、ざらざらしているところがすべて次第になくなるようにと研磨機にかけ、ぴったりと押し付ける。それから、その宝石を光にかざしてみても、主なるお方はそこにご自身の姿をご覧になり、その宝石がご自分の宝石箱の中に場所を占める価値があると断言なさる。「万軍の主は言われる、……その日、わたしはあなたを立て、あなたを印章のようにする。わたしはあなたを選んだからであると、万軍の主は言われる」。厳しくはあっても、その石に新たな価値を与え、生き生きとした明るさでその石を輝かせる経験は幸いである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1177)

神はご自分の忠実な働き人を一人として、強い敵と戦って打ち負かされてしまうがままにしておかれない。このお方は、その命がキリストと共に神のうちに隠されているすべての人を、尊い宝石として守って下さる。(教会への証 7 巻 67)

神はあらゆる試練をお量りになる

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10:13)

一人一人に戦うべき自分自身の戦いがあり、他のどの魂からもういくつかの点で独立した、得るべき自分自身のクリスチャン経験がある。そして神は他のだれもその人のために得ることのできない教訓、一人一人が自分自身のために得なければならない教訓を持っておられる。……わたしたちの天父は、信者に試練が下ることを許す前に、あらゆる試練を計り、量られる。このお方は、神の試みとテストの下に立たなければならない人の状況と力づよさを考慮なさり、その人の抵抗する能力以上の誘惑をお許しになることは決してない。もしもその魂が圧倒され、その人が負かされるなら、これは決して神に責任を負わすことはできない。……ただ誘惑を受けた人が、用心深く、よく祈っていなかったからである。また神が彼のために豊かに備えておられたみ摂理を、彼が信仰によって自分のものとしなかったからである。キリストは、ご自分の争闘の時に、決して信じる者を失望させられない。信じる者は主の御名によって約束を主張し、敵と会わなければならない。……

ああ、神の民が天へ移される準備をする前に、彼らのためになされなければならない大きな働きがある。ある人々への炉の熱は、不純物を明らかにするために耐え難いに違いない。自己は十字架にかけられなければならない。一人一人の信者が自分の知識のおよぶかぎり主に従い、なおかつ同胞に自分を抑圧させるようなどんな正当な機会も与えないようにしているなら、その結果がたとえ牢獄や死であっても、恐れる必要はない。……

神の優しい思いやりは、ご自分の民に向けられている。信仰、驚くべき信仰—それは神の民を正しい道に導く。この信仰がなくては、わたしたちは自分たちへの神の取り扱いをたしかに誤解し、このお方の愛と誠実をたしかに信頼しないようになる。試練と苦しみがどのようなものであろうと、……臆病になり、怒りっぽい愚痴をこぼし、不平を言うことがないようにしよう。……

わたしたちの心に差し込む、自分には受ける価値のない神の恩寵の証拠の一すじの光線は、どのような性質であらうと、どれほど厳しかろうと、すべての試練にまさっている。(原稿 6、1889 年)

11月14日

信仰が陰鬱を貫かなければならない

「彼がわたしを殺しても、なおわたしは彼により頼む。……彼はまたわたしの救いとなられる。」(ヨブ 13:15, 16 欽定訳)

真のクリスチャンは、自分の魂と神との間にどのような世的な考慮が入ってくることも許さない。……

失望が魂に居座ったとしても、それは神が変わられたという証拠ではない。神は「きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」お方である(ヘブル 13:8)。あなたが義の太陽の光線を感じることができるとき、あなたは神の恩恵のうちにいることを確信できる。しかし、たとえ黒雲があなたの魂の上にまたたくまに広まっても、自分が見捨てられたと感じてはならない。あなたの信仰は陰鬱を貫かなければならない。あなたは一心にみつめていなければならない。そうすればあなたの全身は光で満たされる。キリストの恵みの富にしっかりと思いを留めていなければならない。このお方の愛が備えてくださる教訓を蓄えなさい。あなたの信仰がヨブのようになり、「彼がわたしを殺しても、なおわたしは彼により頼む」と宣言できるようになりなさい。……

クリスチャンの生涯における最も苦しい経験は、最も祝福されたものとなることができる。暗黒の時の特別な摂理は、将来におけるサタンの攻撃で魂を勇気づけ、火のような試練に立つよう神の僕を備えさせる。あなたの信仰の試練は黄金よりもっと尊い。あなたは欺く者の誘惑や議論によって悩まされない、神のうちに宿る確信を持たなければならない。み言葉によって主をつかみなさい。あなたはみ約束を研究し、必要なときにそれらを適用しなさい。「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」(ローマ 10:17) ……

魂に神の実在と臨在を魂に親しませるのが信仰である。だからわたしたちがこのお方の栄光にだけ目をとめて生きるとき、このお方の品性の麗しさをますます認識するようになる。わたしたちの魂は霊的能力が強くなる。なぜなら天の雰囲気呼吸しており、神がわたしたちの右側におられて、動かされる事がないということを知っているからである。……わたしたちは無限のお方のご臨在の内にいるかのように生きなければならない。……

神の知恵は、主に信頼をおく人々の歩みを整える。神の愛は彼らを包み、彼らは慰め主、聖霊の臨在を認識する。(ビュー・アンド・ワルド 1910 年 9 月 8 日)

わたしは主の恵みを味わい知った

「あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。」（ペテロ第一 2:3）

あなたは主が恵み深い方であることを、味わい知っているだろうか。あなたの霊的欲求は主との交わりを切望しているだろうか。あなたは自分が望むすべてを持つことによってではなく、苦難の学校の課程を修了することによって、神が恵み深い方であることを発見することができる。わたしは九才の時から苦難の学校で学んできた。わたしの幼少時代に、イエスの尊い言葉以外に、わたしは何も欲しいものを見つけないことができなかった。わたしは、神のみ言葉の甘美さを存分に味わって以来、もっと得たいという欲望を失ったことはない。

わたしはオーストラリアへ行って後、リューマチとマラリヤに悩まされた。一ヶ月の間わたしは自分の右腕を自由に動かすことができなかった。どうしてこのようになったかいぶかったが、一週間の後、すべての思いわずらいを止めて、自分自身を主の手にゆだねるのが最善であるという結論に達した。わたしは主の慈しみを味わい、主があわれみ深い方であることを見出した。夜のほんの少しの間だけ、わたしは痛みを忘れて眠ることができた。それでもわたしは主の慈しみを味わい知った。主のご臨在の意識がわたしをこの世からさげざり、あたかもかつてモーセがしたように、顔と顔を合わせて主と話すことができるように思えた。痛みや苦しみに悩まされている間中、わたしには天の友であるお方が共にいてくださることを感じた。……

キリストは、わたしはあなたを助けるために、あなたの右側にいると言われる。わたしたちは、自分たちの弱さのうちにあって、これ以上何を望むことができるだろうか。自分の悩みをすべて携えて他の人のところへ行って、自分が会っている試練や、自分たちがいかに弱いかを人間に話すのだろうか。救い主はわたしたちの右側に立ち、引き上げようと申し出ておられるが、それはキリスト・イエスにあって「天上で座につかせて下さる」ためである（エペソ 2:6）。しかしわたしたちはどれほどしばしばこのお方とそのみ約束に背を向け、キリストだけが負うことのできる悩みを持って、わたしたちと同じような悩みを持ち、同じように死んでいく人間のところへ行き、自分の悩みを告げる。……もうわたしたちは、神から無能な人間へと向き変わることによって神をはずかしめることをやめよう。……

あなたの悩みを主なるお方の許へ携えて行きなさい。そして「主よ、わたしはここにいます。あなたはわたしのすべてを知っておられ、わたしを助けることができます。わたしはあなたのみ足の跡に従い、あなたのみ旨を行います」と言いなさい。あなたが神に自分自身をゆだねる時、あなたはすべての悩みの時に、あなたが必要とするその助けを得ることを確信することができる。（原稿 91、1901 年）

11月16日

喜びなさい

「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。…… 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」(ピリピ 4:4-6)

困難のなかで、主にあって喜ぶことは難しく思えるかもしれない。しかしつぶやきの精神に道を明け渡すことによって多くの物を失う。いつも心にキリストの平安を持つのはわたしたちの特権である。簡単にかき乱されるのを許してはならない。神がわたしたちに試練と困難をくぐらせられるのは、テストなされるためである。だからわたしたちがこのお方が試されるときに忍耐深く、信頼にみちているならば、神はすべての不純物から精錬し、ついには勝利と喜びをもって取り出してくださるのである。大いなる祝福が、神が負わせたいと思っておられるくびきに不平を言うことなく服従する人々のために備えられている。……

真理の光があなたの生涯に輝き出るようにしなさい。どのようにそれを輝かそうかとあなたは言うだろうか。もしもあなたが真理を受け入れる以前に短気でいらいらする人であったのなら、今は真理があなたの心と品性に聖化する感化を与えていることを、まわりの人々にあなたの生活で示し、いらいらして短気であったのが、今では快活で不平のない者であることを示しなさい。このようにして、あなたは世にキリストをあらわす。……

「すべてのことに」イエス・キリストによる神の守りの力のゆえに「感謝しなさい」(テサロニケ第一 5:18)。……あなたが助けを求めて祈りをささげている瞬間に、感じたいと願う喜びと祝福をなにも感じないかもしれないが、キリストがあなたの願いを聞き、答えて下さると信じるならキリストの平安が来る。……

もしもあなたが力強い助け手である方の力強さをつかみ、あなたの敵と論じることなく、決して神に対してつぶやかないなら、このお方の約束が事実であることが証明される。あなたが神を信頼することで今日得る経験は、あなたが明日の困難に対処する助けとなる。1日1日、あなたは幼い子供のように信頼しながら、もっとイエスと天に近づかなくてはならない。神への揺らぐことのない信頼をもって日々の試練と困難に対処することによって、あなたは何度もくりかえし天の約束を試すようになり、そのたびに信仰の教訓を学ぶ。このようにしてあなたは誘惑に抵抗する力を得、もっと強い試練が来た時に耐えることができる。(原稿 8、1885 年)

苦悩の中における平安

「そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあつて守るであらう。」(ピリピ 4:7)

イエスは人の贖い主としてだけでなく、偉大な模範としても地上に来られた。このお方の模範は完全な生涯、柔和、謙遜、純潔、そしてどこまでも神に頼る生涯であった。……このお方はわたしたちに、静かに、変わらず、揺るぎなく天父に信頼するという偉大な教訓を実際にお教えになった。イエスをご自分の愛する者に誘惑、試練、苦悩が来るのをお許しになる。それらはこのお方のみ摂理であつて、彼らをご自分のそばから迷い出ているとき、彼らを連れ帰り、彼らにご自分の臨在と神による保護についてのもっと深い観念を与えるための憐れみの招待である。人知を越える平安は、試練や戦いや自己否定にひるむ者のためにあるのではない。……

イエスの目はたえずわたしたちの上に注がれている。魂と義の太陽との間に入り込む雲は、わたしたちの信仰が大きな望み、確かな約束をつかむために強くしていただくことができるように、そしてあらゆる嵐の暗黒をも貫いて、わたしたちの信仰が光を輝かせることができるようにと許された神のみ摂理である。信仰は闘争と苦しみを通して成長しなければならない。わたしたちは個人的に苦しみと強くあることを学ばなければならない。そして弱さに沈んではならない。……

わたしたちの天父が、地上の魅力を減らし、上にあるものに愛情をおくように導く状況にわたしたちがおかれるのを許されるのは、このお方の大いなる思いやりである。しばしば、地上の祝福の損失は、それを所有するよりも多くのことを教えてくれる。試練と苦悩を経験するとき、それはキリストがわたしたちを愛せず祝福していないという証拠ではない。あわれみ深い神の小羊はご自分の関心を、ご自分の苦しむ群れの関心と同一視なさる。このお方は毎瞬間彼らを見守っておられる。どの深い悲しみをも知っておられる。このお方はサタンのあるゆるほのめかし、魂をひどく苦しめる、疑いのすべてを知っておられる。……このお方は試みられた者、過ちを犯した者、信仰のない者のために嘆願しておられる。この方は彼らをご自分との親密な交際にまで引き上げようと努力しておられる。ご自分の民を聖化し、清め、気高く、純潔にし、彼らの心を平安で満たすのはこのお方の働きである。このお方はこのように彼らを栄光と誉れと、永遠の命にふさわしい者としておられる。すなわち、どんな地上の王子よりもさらに富み、さらに続く相続にふさわしい者としておられるのである。(ビュー・アソド・ヘルド 1884 年 8 月 12 日)

11月18日

キリストの平安という遺産

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

キリストは、ご自分の十字架の少し前に、平安という遺産を弟子たちにのこされた。……この平安は世との一致を通してくる平安ではない。外面的な平安よりもむしろ内面的な平安である。外には、公然とした敵の反対を通して、また友だと主張する人々の冷淡さと疑いをとおして争いや戦いもあろう。キリストの平安は分裂を払いのけるのではなく、紛争と分裂のただ中でも残るのである。

キリストは平和の君という称号を身につけておられるけれども、ご自身について「地上に平和をもたらすためにきたと思うな、平和ではなく、剣を投げ込むために来たのである」と言われた(マタイ 10:34)。……平和の君であるこのお方はまた分裂の原因でもあった。(ビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 1 月 16 日)

主のみ名により頼むすべての者が救われるためには、家族も分かたれなければならない。このお方の無限の愛を拒むすべての者は、キリスト教が剣であり、自分たちの平安をかき乱すように思えるのである。……

不信仰な者の世間的な集団から自分を区別することなく、イエス・キリストに真に従う者となることはだれにとっても不可能である。もし世がイエスを受けいれているなら、意見の相違という剣はないはずである。なぜなら、すべての者がキリストの弟子になり、お互いに交わり、そして彼らの一致は破られることはないからである。しかし事実はそうではない。そこかしこで家族の一人一人が、自分の良心の確信に真実であり、一人で立つよう強いられている。……境界線がはっきりしている。一方は神の御言に立っており、他方は人の言い伝えと人の言葉に立っている。……

キリストがご自分の弟子たちにお与えになり、わたしたちが祈り求めている平安とは、真理から生まれる平安であり、分裂によって消えてしまわない平安である。外には戦い、争い、しつと、羨望、憎しみ、紛争があるかもしれない。しかし、キリストの平安は、世が与えることも奪うこともできないものである。(ビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 7 月 24 日)

真の平安すべての基礎

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。」(ヨハネ 16:33)

「わたしにあってあなたは平安」—キリストにある平安、真理を信じることによる平安「を持つことができる」。慰め主は、真理に慰めと平安と希望があるがゆえに、真理の御霊と呼ばれる。欺瞞は本物の平安を与えることができない。平安は真理を通してのみ受けることができる。……

キリストはご自分に従う者たちが一つになることができるようにと祈られた。しかしわたしたちはこの一致を手に入れるために真理を犠牲にするべきではない。なぜなら真理によって聖化されなければならないからである。ここにあらゆる真の平安の土台がある。人間の知恵はこの基礎はあまりにも狭いと断言して、これを全く変えようとする。人は人気のある意見に譲歩することによって、世と妥協し、命にかかわる信心、神に似た者であることを犠牲にすることによって、一致を効果的なものにしようと試みる。しかし真理は主の民の一致にとって神の基礎である。

聖化、一致、平安—すべては真理を通してわたしたちのものとなるべきである。真理を信じるのが人を憂鬱で不愉快にすることはない。もしもあなたが、キリストにあって平安を持っているなら、このお方の尊い血潮はあなたの魂にゆるしと希望を語りかけている。しかし、それにもまして、あなたは尊いみ約束を受け入れることによって聖霊にある喜びを持つ。イエスは「あなたがたはこの世では悩みがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)と言われる。それゆえ、もしもあなたがわたしを信じるなら、世があなたに打ち勝つようなことはさせない。わたしが勝ったのは世である。わたしが打ち勝ったので、もしあなたがわたしを信じるなら、あなたにも打ち勝たせる。

……

イエスは約束なさったことをすべて成就なさる。だからこのお方を疑うことによって、わたしたちはこのお方を大いに辱めていることになる。このお方の言葉はすべて霊であり、命である。このお方のみ言葉を受け入れ、従うと、それらは平安と幸福と確証を永遠に与える。……キリストはわたしたちに平安を与えていると宣言しておられる。平安はわたしたちに所属している。このお方が無限の犠牲を払ってわたしたちのために買い取って下さった平安—このお方がわたしたちのものとして確保しておられる平安を、わたしたちはこのお方にあると信じていると、キリストは言われた。わたしたちはこの平安を世で探す必要はない。なぜなら世はそれを与えることができないからである。平安はキリストのうちにある。キリストは、世に反して、世の脅迫や法令、また世の魅惑や、偽りの約束にもかかわらず、平安を与えて下さるのである。(ビュー・アノド・ヘルド 1892年4月12日)

充分ではない表面的経験

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪惡な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

つねに表面的な働きで満足する危険がある。すなわち、魂が自らをしっかりと神に錨を下ろさず、あちらこちらに漂うことに満足して、サタンの誘惑の餌食になる危険がある。……心のうちにある神の御霊の働きは、真の悔い改めを引き出し、告白に終わらないで日々の生活にはつきりした改革をもたらす。そこにはひどく苦しむことによって適切にあらわすことのできる熱心、忍耐、決心が明らかにされる。

……

不正が満ちているという事実、わたしたちが不信心と無神論者に囲まれているという事実、あるいは、名前では生きているが実際は死んでいる自称クリスチャンに囲まれているという事実は、わたしたちのうちのどれかが永遠の滅亡に向かって流されなければならないという理由にはならない。ほとんど世界的ともいえる神を捨てる傾向があるので、しっかりと忠実に立つという大きな必要がある。……わたしたちは義の太陽から神の光線を集め、それらを世に反映しなければならない。曲った邪惡な世代のただなかで、わたしたちを暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざについて讃美の声をあげなければならない。

クリスチャンの戦いにおいて、わたしたちが遭遇する試練や誘惑のテストに耐えることができるようにするのは、深い個人的な経験以外にない。あまりにもしばしば、わたしたちはすべてが順調にいつているときに気分が良くなる。しかし、疑いが魂を激しく攻め、サタンが自分の暗示をささやくとき、わたしたちの防御は崩れ、誘惑者に抵抗し、撃退する努力をほとんどしないで、すぐに彼のわざに屈する。一時的に良い感情を持つというだけでは充分ではない。魂は祈りと聖書の研究によって防壁を築かなければならない。これらの武器で身を固めて、イエスは戦場でわたしたちの悪賢い敵と交戦し、彼に打ち勝たれた。わたしたちはすべてこのお方の力で克服することができる。しかしこのお方の助け無しで済ますことができると思うと、わたしたちへの保証はない。このお方ばわたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネ 15:5)と言われる。しかしキリストが光の中におられるように光の中を歩く真の謙遜な魂は、サタンの惑わせる策略で罠にかけられることはない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1904年10月26日)

キリストに根ざす

「正しい者はなつめやしの木のように栄え、レバノンの香柏のように育ちます。」
(詩篇 92:12)

クリスチャンはレバノンの香柏にたとえられている。わたしは、この木は肥沃な土壌の中に数本の短い根をおろす以上のことをすると読んだことがある。この木は強い根を何本も地に深くおろし、なおいつそう強いささえを探して深く、さらに深くおろしていく。そして暴風雨のすさまじい突風の中で、地下に張った網状の錨綱によってささえられ、しっかりと立つ。

そのようにクリスチャンもキリストに深く根を張る。彼は自分の贖い主を信頼する。彼は自分が信じるお方を知っている。彼はイエスが神の御子であり、罪人の救い主であることを完全に確信している。……信仰の根は深くおりている。ほんもののクリスチャンはレバノンの杉のように、表面のやわらかい土の中で成長するのではなく、神に根ざし、山の岩の裂け目にくぎ付けされる。(手紙 95、1902 年)

もしもクリスチャンが少しでも成長し、向上したいなら、彼は神を知らない者の中でも、あざ笑う者の中でも、冷やかしの的になっても、そうしなければならない。彼は砂漠のしゅろの木のようにまっすぐに立っていなければならない。空は真ちゅうのようになり、砂漠の砂がしゅろの木の根元をうち、幹のまわりに山積みになっている。けれども木は焼けつくような砂漠の砂のただなかで、いつも緑に、新鮮で元気はつらつと生きている。あなたがしゅろの根に到達するまで砂を取り除きなさい。そうすればあなたはしゅろの生命の秘密を発見する。しゅろは地中に隠れている秘密の水まで、地表の下深く根を下ろしているのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1151)

しゅろの木のように生ける水の泉から栄養をとるものは砂漠の真ん中でも青々と繁っている。そのようにクリスチャンも神の愛の泉から恵みの豊かな供給を汲むことができる。そして罪の砂漠で不安に満ち、今にも滅びようとしている疲れた魂を、飲んで生きることのできる水へと導くことができる。クリスチャンはいつでも自分の同胞に、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」(ヨハネ 7:37) とお招きになるイエスを指し示している。この泉はわたしたちをけっして失望させることはなく、汲んでも汲んでも、また汲むことができるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1151)

11月22日

主根はないのか

「だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」(コリント第一 15:58)

しっかりと錨を下ろすためにはわたしたちを支える何かしっかりした物がなければならない。キリストが魂を所有なさらないかぎり、何も役に立たない。……今は強く見え、真理の正当性を立証しているように見える多くの人は根づいておらず、大地にしっかりとついていない。彼らは主根を持っていない。だから反対の嵐や迫害がくるとき彼らは突風で根こそぎ引き抜かれる木のようなものである。(ビュー・アンド・ワールド 1884 年 4 月 29 日)

わたしたちはあらゆる点で攻撃され、極度にまで試みられるであろう。単に父祖から手渡されたという理由だけで信仰を持ちたくはない。そのような信仰はわたしたちの前にある恐ろしいテストに耐えない。わたしたちは自分がなぜセブンスデー・アドベンチストであるか、分離し、独特な民として世から出てくる本当の理由が何であるかを知りたい。……

人が神の働きの中で信仰と財産を持っているが故に、神の働きに関して知的になることを望んでいるなら、神は彼らが理解するのをお助けになるので、彼らは信仰で不動になる。しかし彼らが単に理論や自分で説明することができない浅い信仰しか持っていないなら、突然の誘惑によって彼らは世に向かう潮流と共に流されてしまう。……

わたしたちの思いは、外からであろうと内からであろうと、あらゆる試練に耐え、あらゆる誘惑に抵抗する準備ができていなければならない。わたしたちはなぜわたしたちのやり方を信じているのか、なぜ主の側にいるのかを知らなければならない。真理がわたしたちの心の中で見張り、警告を鳴らす準備をし、あらゆる敵に対して行動を起こすよう勧め続けなければならない。暗黒の力はわたしたちに彼らの砲台を開く。そして無関心な者、不注意な者、自分たちの地上の宝に愛情を置いている者、ご自分の民への神の取り扱いを理解しようとしないうちは皆えじきになる用意ができています。イエスのうちにある真理の知識以外には、いかなる力もわたしたちを堅固にすることはできません。しかしこの真理を持つなら、一人で千人を追い、二人で万人を破ることができる。(ビュー・アンド・ワールド 1884 年 4 月 29 日)

純潔な宗教のスタミナ

「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。」(詩篇 119:45)

聖書の宗教がその教えに従おうとする人々に課す自制に関して、残念そうに話す人々がいる。彼らは自制が大きな損失であると考えているように思える。しかし、神がわたしたちと敵の陣地の間に天来の防壁を築いて下さったことに心から感謝する理由がある。多くの人々が個人の最高の発達をとげるためには従うべきだと考えている生来の心の傾向というものがある。しかし、人が必須と考えることを、神は人が考えるようには人間にとって祝福とならないのをご存知である。なぜならこのような品性の特質の発達は彼らを天の住まいにふさわしくないものにするからである。主は金から不純物を分けることができるために人をテストと試みのもとにおかれる。しかしこのお方はだれをも強制なさらない。このお方は足かせやひも、また柵で束縛しようとはなさらない。なぜなら彼らは不満が減るよりもむしろ不満を増大させるからである。……ほんものの宗教は感化力をせばめるものではない。能力を閉じ込め、思いをせばめるのは宗教の欠如である。(原稿 3、1892 年)

宗教は積極的な働く原則であり、人生の厳しい現実に必要なスタミナを供給する。……宗教はその所有者に品性と知力と感情を自制し、支配し、調和させる力を分け与える。宗教は神の権威をもって、すべての能力と愛情を説得し、懇願し、命じる力を持っている。宗教—ああ、わたしたちが皆宗教の働きを理解できたならと思う。宗教はわたしたちを最も重い義務のもとに置く。わたしたちが自分をキリストと結びつけるとき、キリストが歩かれたように自分たちも歩くことを厳粛に誓う。(手紙 25、1882 年)

わたしたちを暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを語り伝えるのはわたしたちの特権である。……主の道は守られなくてはならず、このお方の道は義において高められている。クリスチャンは態度と言葉と品性において彼らが天の家系であることをあらわす。わたしたちはクリスチャンであること、また正しいことに勇気があるがゆえに、決して世にあやまる必要はない。(手紙 31a、1894 年)

純潔な宗教は平安と幸福と満足とをもたらす。信心、神のようであることは現世と来世とに有益である。(手紙 1b、1873 年)

11月24日

目しいと耳しいになるべき時

「だれか、わがしもべのほかにも目しいがあるか。だれか、わがつかわす使者のような耳しいがあるか。だれか、わが献身者のような目しいがあるか。だれか、主のしもべのような目しいがあるか。彼は多くの事を見ても認めず、耳を開いても聞かない。」（イザヤ 42:19, 20）

これはどのような種類の目しいであろうか。それはわたしたちの目が悪をじつと見つめるのを許さない目しいである。めしいはわたしたちの目を不正に向けない。目に見えるものを捕らえず、あてがはずれて永遠を失うことはない。……わたしたちは正しく見たい。神がご覧になるように見たい。なぜならサタンは、わたしたちが彼の媒介を通して見るができるために、わたしたちの目が留まる事物を絶えず変えようと努力しているからである。……

生ける神の僕は、ある目的に気をつける。目が聖化され、耳が聖化される。そして、悪に対して、目と耳を閉じる人々は変えられる。しかししも彼らが自分に話しかける人々、神と彼らの永遠の関心事から彼らの思想をそらそうと試みる人々に聞き従うなら、そのとき彼らの全感覚は彼らの目が留まるものによってゆがめられてしまう。イエスは「あなたの目が澄んでおれば、全身も明らだろう。しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう」（マタイ 6:22, 23）と言われる。

わたしたちが自分の思いと魂に何を食べさせるかがあらゆる違いを作る。自分の思いをロマンスや非現実的な空想にふけらせておくことはできるが、それがわたしたちにとってなんの役に立つだろうか。それはわたしたちの魂と体とを破滅させる。……わたしたちは精神を高めない光景、気高くしない光景、わたしたちを精錬せず、生成しない光景に目を閉じることができる力を持ちたい。そして神の御言で禁じられているあらゆることに、耳を閉じ続けることのできる力を持ちたい。神はわたしたちが悪を想像し、悪を語り、悪を考えることすら禁じておられる。……

わたしたちはイエスのうちに、麗しいあらゆるもの、神聖なあらゆるもの、高く揚げ、純潔なあらゆるものを見る。そうであるなら、なぜわたしは不愉快なあらゆるものを見るために自分の目を大きく開きたいと思わなければならないのだろうか。見ることによって変えられる。イエスを見つめ主の品性の麗しさを熟考しよう。主を、このお方の品性を熟考しよう。そうすればわたしたちは眺めることによってそれと同じ姿に変えられる。（原稿 17、1894 年）

神の御手に粘土を形づくっていただく

「されど主よ、あなたはわれわれの父です。われわれは粘土であって、あなたは陶器師です。われわれはみな、み手のわざです。」(イザヤ 64:8)

わたしたちが主と一致するときに、このお方がわたしたちのために何をしてくさるかは、わたしたちにはわからない。主はご自分が人をどのようにすることがおできになるかをご存知である。わたしたちの弱い信仰がはっきりと識別できない可能性がある。「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一 3:9)。このお方は人間のうちにある今は望ましくない品性の特性のすべてをご覧になるが、もし人間がキリストの柔和と謙遜を学ぶなら、人間の闘争的な精神や好ましくない性質を型に入れて形成し、その存在のあらゆる力をご自分の王国を前進させる働きへと導くことができることをご存知である。このお方は生活全体を洗練し、高め、高貴にしようと望んでおられる。……神は聖霊の力を通して、もっとも悪い品性の者を用い、彼らを向上の機会がある者にすることがおできになる。

信仰によってキリストの信仰を一目見ることができる人は幸いである。……そこには品性においてキリストのようになる可能性がある。……人が自分のものである特権を知るとき、大いなる光がその人にくる。彼は自分のための神のご計画を見て、自己に死ぬ。……彼は働いていただくために服従する。……彼が陶器師の手にある粘土として服従するとき、そのときこそ神はその人を名誉ある器になさるのである。(手紙 63、1898 年)

陶器師の手にある粘土は……陶器師の意志が器にあらわされるまで何度も何度もひっくりかえされる。恵みと真理は、人間という粘土を形づくる働きを完成するが、それは偉大な陶器師であられるお方の栄光が、奉仕のためにこねられ磨かれた形のよい器の製作にあらわされるためである。(手紙 48、1888 年)

陶器師であるお方はご自分の手におかれたことのないものを名誉あるものに形づくり、創り出すことはできない。クリスチヤンの生涯は日ごとの降伏、服従、絶え間のない克服である。毎日新しい勝利が得られる。自己が見えなくなり、神の愛が絶えず培われなければならない。このようにしてわたしたちはキリストへと成長する。このようにしてその命は神の型にかたどって形づくられる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1154)

神の御手がご自身の奉仕のため、粘土に働いてくださるようにしよう。このお方は、ご自分が望んでおられる器の種類がなんであるかを正確に知っておられる。(手紙 63、1898 年)

11月26日

自分を反省する

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。」(コリント第二 13:5)

「信仰があるかどうか、自分を反省しなさい」。多くの者が、……すぐに「なぜですか、もちろんわたしは信仰があります。わたしは、真理のあらゆる点を信じています」と答えるかもしれない。しかし、あなたは自分が信じていることを実行しているだろうか。あなたは神とまた兄弟たちと平和だろうか。「われらに負い目ある者をわれらが許すごとく、われらの負い目をも許したまえ」と真剣に祈ることができだろうか。……あなたの心に苦々しさ、羨望、しつと、悪い憶測はないだろうか。……競争心、特別な好意や名誉への願望、最高位を得る望みはないだろうか。……

自分がどのような精神をいだいているかを知るために、わたしたちは自分を十分吟味することは良いことである。もつとも苦しい状況の下にあっても、わたしたちは、穏やかに、静かに話すことを学ぼう。わたしたちの言葉だけでなく、思想と想像も支配しよう。親切で礼儀正しくあろう。(ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 4 月 29 日)

多くの者が自分の大きな欠陥に気づいている。だから彼らは読み、祈り、決心する。けれども進歩しない。彼らは誘惑に抵抗する力がないように見える。その理由は彼らが十分深くまで進まないからである。彼らは魂から流れ出る泉が純粹になり、キリストが内で統治しておられることを態度が証するような徹底的な魂の改心を求めないのである。品性のすべての欠陥は心に始まる。自尊心、虚栄、悪い気質、食欲はキリストの恵みによって新たにされていない肉の心に起因している。もしも心が精錬され、柔らかくされ、高貴にされているなら、言葉と行動がその事実をあかしする。魂が神に完全に降伏しているとき、神の約束への堅固な信頼がある。そして言葉と行動を支配する断固とした努力と熱心な祈りがある。(ビュー・アンド・ヘルド 1885 年 9 月 1 日)

わたしたちは偉大で神聖な信仰を公言している。だからわたしたちの品性はその信仰と一致しなければならず、神の偉大な道徳的標準と一致しなければならない。……

キリストによって定義されたように神の律法の大原則の光でわたしたちの心を反省しよう。「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ、また自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(ルカ 10:27)。(ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 4 月 29 日)

自分をきよく守る

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ 5:8)

何が思いと魂また体の純潔を構成するかを知ることは、教育の最高のクラスである。使徒パウロはテモテへの手紙で彼に可能な到達を要約して「自分をきよく守りなさい」と言っている。(手紙 145、1897 年)

青年の思いを占領し、彼らの思想を墮落させ、彼らの情欲をかき立てることが、終わりの時代におけるサタンの特別な働きである。すべての者が自由意志を持つ道徳的な存在である。そしてこのような状態において、彼らは自分たちの思想を正しい水路に走らせなければならない。……もしもサタンが思いを低い感覚的なものにそらそうと努めるなら、それを連れ戻し、永遠の事柄の上に置きなさい。そして主が純潔な思想だけを保つたためになしている断固とした努力をご覧になる時、このお方は磁石のように思いを引きつけ、思想を清めて下さる。……改革をしたいと思う人々の最初の仕事は想像を浄化することである。もしも思いが不道徳な方向に導かれているなら、純潔で、高められた主題にだけ留まるように抑制されなければならない。墮落した想像に屈服するように誘惑された時は、恵みのみ座に逃げ、天からの力を求めて祈りなさい。神の力強さにあつて、想像力は純潔で、天来のものに留まるように訓練することができる。……

神からの知恵を持ちたい人々は、賢くなるためにこの時代の罪深い知識において愚かにならなければならない。彼らは目を閉じなければならない。それは悪を見て学ばないためである。彼らは悪いことを聞かないように、そして思想と行動の純潔にしみをつけるような知識を得ないように、自分の耳を閉じなければならない。彼らは不正な情報を口にすることがないように、彼らの口に偽りが見出されないように、自分の舌を守らなければならない。すべての者が、この世における猶予の期間に自分たちの行動に対して説明する義務がある。すべての者が自分の行動を統御する力を持っている。もしも彼らが思想と行動の徳と純潔において弱いなら、彼らは無力な者の友であられるお方から助けを得ることができる。イエスは、人性の弱さをすべて知っておられる。だから嘆願するなら、最も強い誘惑に打ち勝つための力を与えてくださる。すべての者がへりくだってこの力を求めるなら、それを得ることができる。(原稿 93、日付未詳)

11月28日

完成を目ざして

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:13)

純潔で祝福された者たちの社会に道徳的なふさわしさに達することは、偉大な、厳粛な仕事である。……神の御言に従うことによつてのみ、わたしたちは「キリストの満ちみちた徳の高さにまで」達することを望むことができる。が、わたしたちはこれをしてしなければならない。さもなければ天国に入ることは決してない。心の純潔と聖潔なしにはわたしたちは不死の栄光の冠を得ることはできない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 5 月 30 日)

魂の命は、天に向かい、キリストに向かい、神に向かう愛情を正しく働かせるのでなければ、維持することができない。罪のゆるしのためには、悔い改めとキリストを信じる信仰が不可欠であるが、要求されているのはそれがすべてではない。……クリスチャンの生活はその時やっと始まったばかりである。彼は、使徒に勧告されているように「完成を目ざして行」かなければならない。彼はすべての思いをとりこにしてキリストの服従へのとりこししなければならない。もしイエスを信じるなら、わたしたちはこのお方のことを考えることを愛し、このお方のことを話すことを愛し、このお方に祈ることを愛する。このお方はわたしたちの愛情の中で最高のお方である。わたしたちはキリストが愛されることを愛し、キリストが憎まれることを憎む。……

クリスチャンの生活は決して休止してはいない。それは前進的であるし、またそうでなければならない。キリストに対するわたしたちの愛はますます強くならなければならない。……

わたしの兄弟、わたしの姉妹よ、あなたの魂は神の愛のうちにあるだろうか。あなたがたのうち多くの者は、キリストの卓越さについてぼんやりと認識しているが、それであなたの心は喜びにふるえている。あなたはもっと十分にもっと深く救い主の愛を感じたいと切望している。あなたは、もっと密接にこのお方のまわりに自分の愛情を絡みつかせたいと切望している。あなたは満足していない。しかし、失望してはならない。イエスに最上にして最も聖い心の愛情を捧げなさい。一つ一つの光線を大事にしなさい。神を求める魂のあらゆる願いを大切にしたい。霊的な思想と聖なる交わりを培うために自分をささげなさい。……天国のために急いで成熟しなさい。……

クリスチャン経験を得るために、そして真実で気高い品性を発達させるためには何らかの犠牲を伴う。……しかし、贖われた者の白い衣をまとった群れは、自分の衣を洗い、小羊の血で白くした人々である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 5 月 30 日)

見えないお方を見る

「信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、……信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は、見えないかたを見ているようにして、忍びとおした。」（ヘブル 11:24, 27）

モーセは……見えないお方を見ているように生活した。そしてそれゆえにキリストの譴責をエジプトの宝よりも大いなる富とみなすことができた。もしも人がこの方法で生きようとするなら、わたしたちは彼らの顔が神の栄光で輝いているのを見るであろう。なぜなら、彼らは永遠なるお方の栄光を見ており、そしてながめることによって、彼らはキリストのみ姿に変えられるからである。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 9 日）

わたしたちの思いは、自分たちの思想がとどまっている事柄の水準となる。もし地上の事柄を考えるなら、天上にあることの印象を受けられない。わたしたちは神の憐れみ、善、そして愛を熟視することによって大いなる益を受けたいのであるが、地上にある、一時的な事柄を思案することによって大きな損失をこうむっている。わたしたちは自分の思いを地上のことに引きつけて悲しみ、心配し、当惑する。わたしたちはもぐら塚を山であるかのように誇張する。……わたしたちの思想が全く、世と世的なことになるまで、一時的なことが思いを奪う……べきではない。わたしたちは天の水路の中で考えることができるように、思いを訓練し、鍛錬し、教育しなければならない。霊的な視力によって見分けられる、目に見えない、永遠の事柄を良く考えることができるためである。思いの力強さと精神の活力を得ることができるのは見えないお方を見ることによってである。……

わたしたちが神のみ摂理によって召される場所が何処であっても、神がわたしたちの助け主になられることを確信をもって期待することができる。わたしたちは状況に左右されず、状況を超越すべきである。……試みの立場に置かれ、わたしたちが好まないこと、忍耐を試み、信仰を試すことがらを自分の周囲に見出すとき、わたしたちは失望に陥らないで、もっとしっかりと神にすがりつき、地上の事柄に自分の愛情を注いではおらず、上なるものに注いでいること、またわたしたちが、自分たちの信仰の創始者であり、その完成者であるイエスを仰ぎ見ていることを立証すべきである。イエスが初めてであり終りであり、最初であり最後でなければならない。このお方があらゆる悩みの時のわたしたちの力でなければならない。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 9 日）

キリストの愛に魅了される

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。」(コロサイ 3:1, 2)

わたしたちの愛をすっかりうばうような傾向をもつ地上の何ものかに、自分の愛情を寄せるように誘惑されるとき、それに背を向けるために恵みを求め、それがわたしたちと神との間に入ることを許してはならない。イエスがわたしたちのために用意に行かれた住居のことを、思いの目の前におきたいのである。家や土地、商売上の取引や世の事業がわたしたちと神との間に入り込むのを許してはならない。このお方が記録に残しておられる豊かな約束をいつも目の前に見ているべきである。

わたしたちは、自分が生きている時代を示す偉大な道標を研究するべきである。……今、神の備えの大きいなる日の苦闘のために準備ができるように、最も熱心に祈るべきである。わたしたちは、イエスがわたしたちのために準備をしに行かれた住居で、間もなくキリストと共にいることを予期して喜ぶべきである。……イエスはあなたのすべての必要を満たすことができになる。……あなたがこのお方をながめるとき、あなたはこのお方の神の愛の栄光の富に魅せられるようになる。目に見える事柄の偶像崇拜的な愛は、朽ちることのない尊いものに対するもっと崇高でよりよい愛に取ってかわられる。あなたは自分の愛情が上なるものに結びつくまで、永遠の富を瞑想することができる。そして他の人々の愛情を天の宝におくように導く器となることができる。……

金銭の価値を正しく評価する人々は、真理を一度も聞いたことのない人々の前に、真理をもたらし、この方法で彼らを敵の力から救い出す可能性をみとめる人々である。もしも一人の魂が真理を受け入れるなら、地上のものに対する彼の愛は追い出される。彼は天の事物の無比の栄光を見、永遠の命にかかわるものの卓越さを正しく評価する。彼は見えない永遠のものに惹きつけられる。地上のものをつかんでいた彼の手は緩む。彼は感嘆して他世界のゆるがない栄光にしっかりと目を留める。彼は自分の試練がはるかにすぐれた永遠の重い栄光をもたらすために働いていることに気が付く。そして彼が楽しむことができる自分の富に比べれば、それらを一瞬にすぎない軽い患難とみなすのである。(手紙 97、1895 年)

あなたの旗色を明らかにせよ

「あなたの目は、まっすぐに正面を見、あなたのまぶたはあなたの前を、まっすぐに見よ。」(箴言 4:25)

バンヤン著「天路歷程」の中に「柔弱な者」と呼ばれる人物が登場する。青年たちよ、この品性を遠ざけなさい。これによって表されている人々は、非常に人当たりが良いが、彼らは風にそよぐ葦のようである。彼らには意志力がない。すべての青年は決断力を養成する必要がある。意志が迷っている状態はわなであり、多くの青年を破滅させる。堅固な者となりなさい。さもなければ、あなたの家、すなわち品性は、砂の基礎の上に建てられるがままととなる。……どのような代価を払っても決断力を表しなさい。……神に選ばれた者のために敷かれた道を歩みたい者は、良心の問題に関して、しばしば悪に対して熱心であった人間に左右されてはならない。彼らは道徳的な独立心を示さなくてはならず、また一人になることを恐れてはならないのである。……

多くの人々は、すべての潮流によっていちいち変わる。彼らは他人がどう考えるかを聞くために待ち、その人の意見はまるで真理であるかのように受け入れられる。もし、彼らが神に完全によりたのむのであれば、彼らはこのお方の強さのうちに強く成長する。しかし、彼らは主に向かって、あなたのみ旨を知るまでは、どんな決心もすることができません、と言わないのである。彼らの生来の傾向は、他人が自分の良心となることを許す。そして彼らはその人が語るのに従って語り、彼が言うことを言い、彼が行動するように行動する。これらの人々が自分で考え行動しなければならない状況に置かれたとき、彼らは何一つはつきりとした意見を表明しようとしなさい。しかし、しばしば、アロンのように、彼らには多くの才能がある。神は、このような弱い者たちをあわれまれる。……

わたしたちは社会の慣習や束縛から自由でなければならない。それは、わたしたちの信仰の原則にかかわる問題のとき、たとえわたしたちが異常だと言われても、自分たちの旗色を明らかにすることをためらうことがないためである。あなたは、人が語ったことがないようなもつとも細い神のささやきの声を聞き分けられるように良心を敏感にしておくべきである。キリストのくびきを負おうとするすべての人々は、正しいことが正しいがゆえにこれを行うという不屈の目的を示そう。目をイエスにとめ続け、一歩ごとに「これは主の道か」と問いなさい。こうする者を主は一人として、サタンの誘惑のえじきとなるがままに取り残されることはない。……

人間を模倣してはならない。あなたの聖書を研究し、キリストを模倣しなさい。
(レビュー・アンド・ヘラルド 1899 年 5 月 9 日)

12月2日

つぎはぎでない宗教

「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」(マタイ 24:13)

自我の上に建てた宗教には価値がない。なぜなら神が利己心と妥協なさることではないからである。……

キリストの宗教は、一つのしっかりした織物であり、無数の糸で組み合わせられ、機転と技能をもって織り合わされたものである。ただ神が与えてくださる知恵によってのみ、わたしたちはこの織物を織ることができる。自らに頼って、わたしたちがその中に利己心という糸を織り込むとき、その模様は台なしになる。

はじめは見栄えが美しかったのに、テストに耐えることのできない種類の織物が多くある。色がしっかりしていない。洗い落とされてしまうのである。夏の炎天下に色があせて、失われてしまう。そのような織物は、手荒な取り扱いに耐えることができず、ほとんど価値がない。

宗教についても同様である。宗教の縦糸と横糸が試練というテストに耐えることができないならば、それを構成している材料には価値がない。そして新しい布きれで古い布地につぎあてをしようとする努力は事態を改善しない。なぜなら、すり切れたもろい材料は破れて新しい布からとれてしまい、前より大きなほころびを残すからである。つぎはぎでは役に立たない。唯一の方法は、古い衣を捨て新しい衣を入手することである。自我の宗教、すなわち色あせて誘惑の圧力の下で屈するような糸で構成されたものはわきに置き、ご生涯のうちに利己心がみじんもなかったお方によって織られた宗教と取り替えられなければならない。

キリストのご計画こそ、唯一の安全なものである。このお方は次のように宣言なさる、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」(黙示録 21:5)、「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である」(コリント第二 5:17)。救い主は、つぎはぎの宗教をお受け入れになると考えさせるようなことを、だれにも何一つ仰せになっていない。そのような宗教は救い主の御目には何の価値もない。はじめは一部が自我で、一部がキリストのものであるかのように思われるかもしれないが、まもなくキリストが少しもないことがわかる。利己心のつぎあてが衣全体を覆ってしまうまで増えるのである。……

聖なる型(パターン) にならって形成された宗教こそ、唯一永続するものである。ここでキリストのご生涯を生きようと奮闘することによってのみ、わたしたちはこのお方と共に永遠にわたって生きるために、自ら準備することができるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902 年 1 月 8 日)

神の特別のしるし

「主なるわたしはあなたがたの神である。わが定めに歩み、わがおきてを守ってこれを行い、わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」(エゼキエル 20:19, 20)

安息日は、創造のみわざを記念するために全人類に与えられたものである。偉大なるエホバは、地の基を置かれたとき、また全地の面を美の衣で装われ、地と海のすべての驚異を創造されたときに、安息日を制定し、それを聖とされた。明けの星らが共に讃美し、すべての神の子らが、歓喜の声をあげたとき、安息日は神の記念として他の日と区別された。神はそのすべての驚くべきみわざを休まれた日を聖別され、祝福なされた。……

エデンの園の中央に善悪を知る木が置かれたように、安息日の戒めは十誡の中央に置かれている。善悪を知る木の実について「これを取って食べるな、……死んではいけないから」(創世記 3:3) という制限が設けられた。安息日については、神は、あなたはそれを汚すことなく、聖なるものとして守れと言われた。「安息日を覚えて、これを聖とせよ」(出エジプト 20:8)。善悪を知る木がアダムに従従のテストであったように、第四条は、神がすべての神の民の忠誠を試すためにお与えになったテストである。(ビュー・アソド・ヘラルド 1898 年 8 月 30 日)

安息日は、神とその民との間のしるしである。それは聖日であり、創造主から人に、休息し、聖なる事柄を回想する日として与えられた。神は安息日が、各時代を通じ、永遠の契約として遵守されるよう計画された。それは、特別の宝、すなわち注意深く大事にされるべき委託物としてみなされるべきである。

わたしたちは安息日を遵守するときに、この日は、人が愛されているお方のうちに受け入れられているという、天が人に与えたしるしであることを覚えていよう。もし人が従順ならば、神の都に入り、命の木の実にあずかることができるしるしなのである。第七日目に労働を控えるとき、わたしたちは世に対して、自分たちが神の側に立ち、神の戒めに完全に従って生きるために奮闘していることを証するのである。こうしてわたしたちは、六日のうちに世界を造られ、七日目に休まれた神をわたしたちの最高の主権者として認めるのである。

安息日は、神と神の民とを結合する留め金である。(ビュー・アソド・ヘラルド 1902 年 10 月 28 日)

12月4日

テストの時に

「それゆえあなたは知らなければならない。あなたの神、主は神にましまし、真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及び」(申命記 7:9)

この聖句で述べられている千代が終わる前に、わたしたちはどこにいるであろうか。わたしたちの運命は永遠に決定されるようになる。永遠の神の王国にある家庭にふさわしいか、または永遠の死の宣告を受けるかのいずれかである。(ビュー・アンド・ハルド 1904 年 8 月 4 日)

神は、だれがご自分の真理の原則に忠実であるかを調べるために神の民をテストしておられる。わたしたちの働きは、第一、第二、第三天使のメッセージを世に宣布することである。自分たちの義務を果たすにあたって、わたしたちは敵を軽んじても、恐れてもならない。……

真の安息日は、神にお仕える人々と仕えない人々を区別するしりとなるのである。眠くなり、無関心になった人々を、目覚めさせよう。わたしたちは聖なる者となるように召されているのであり、わたしたちの信仰の独特な特徴を保つても保たなくてもたいした問題ではないというような印象を与えることは注意深く避けるべきである。わたしたちには、過去に自分たちがしてきた以上に、真理と義のためにもっと決然とした立場を取る厳粛な義務が負わされている。神の戒めを守る者とそうでない者との間の境界線は、間違えようのない明白さであきらかにされるべきである。わたしたちは、良心的に神に誉れを帰し、このお方との契約関係を維持するすべての手段を勤勉に用いるべきである。それは、このお方の祝福—非常に厳しく試みられることになる民のために、ぜひとも必要不可欠な祝福—を、わたしたちが受けることができるためである。わたしたちの信仰、わたしたちの宗教が、わたしたちの生活の中における支配的な力ではないという印象を与えることは、神を大いに辱めることである。(ビュー・アンド・ハルド 1904 年 8 月 4 日)

神にわたしたちの信頼を置き、着実に前進しなければならない。このお方のみ働きを私心なく行い、へりくだってこのお方により頼み、自分自身も自分の現在も将来もこのお方の賢明なみ摂理にお委ねし、わたしたちのはじめの確信を終わりまで固く保ちつつ、また天の祝福を受けるのは、自分の価値のゆえではなく、キリストの価値のゆえであること、そしてこのお方を信じる信仰を通して神の豊かな恵みをわたしたちが受けるのもまたそうだということを覚えて、前進するのである。(ビュー・アンド・ハルド 1904 年 8 月 4 日)

区別された特別な民

「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある。」(黙示録 14:12 欽定訳)

神の民は、完全に心を尽くして、どんな誉れも己に帰すことなく、神にお仕える民として区別されるべきであり、また最も厳粛な契約によって、主に、そして主のみにお仕えることを誓ったことを覚えているべきである……

イスラエルの子らは「永遠の契約」(出エジプト 31:16)として、代々ずっと安息日を守らなければならなかった。安息日は、少しもこの意義を失ってはいない。それはなお神と神の民との間のしるしであり、永遠にわたってそうなのである。今もいつまでもわたしたちは、いっさいの世的な方針に束縛されることなく、また神の律法の中に非常にはっきりと示されている神のご要求を認める知恵を持たない人々との同盟にわずらわされることのない区別された特別な民でなければならない。

わたしたちは、主の道を備えるにあたって、天と調和して働こうとしていることを示すべきである。わたしたちはあらゆる国民、部族、国語に対して、自分たちが神を愛し畏れる民、すなわち第七日の安息日を聖なるものとして守る民であるという証をになうべきであり、主がまもなく天の雲に乗って来られることを信じる全き信仰を持っていることを明らかに示すべきである。……

「のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている」(黙示録 22:3, 4)。

この人たちは、だれであろうか。一神の特定の名を与えられた人々—この地上で自分の忠誠を証言してきた人々である。彼らはだれであろうか。一神の戒めとイエスの信仰を守ってきた人々であり、十字架につけられたお方を自分の救い主として認めてきた人々である。

「夜は、もはやない。あかりも太陽の光もいらない。主なる神が彼らを照らし、そして、彼らは世々限りなく支配する」(黙示録 22:5)。「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の戒めを行う者たちはさいわいである」(黙示録 22:14 英文訳)。(ビュ・アッド・ヘラド 1904 年 8 月 4 日)

12月6日

まさに目ざめるべきとき

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。」(ローマ 13:11)

大争鬭の終結は近づいている。海上や陸上からの災害の報告は、万物の終りが近づいていることを証している。戦争や戦争のうわさもそれを宣告している。わたしたちの前に迫っているこの大事件に思いをはせるとき、鼓動が速くならないクリスチャンがいるだろうか。主はおいでになる。わたしたちは近づいて来られる神の足音が聞こえる。(伝道 219)

キリストの来臨が切迫しているというこの知識に、その力を失わせてはならない。そしてわたしたちは不注意や怠慢になって、まどろみ—現実に対する無感覚と無関心—におちいつてはならない。まどろむとき、わたしたちは非現実的な世界におり、わたしたちのまわりに起っている出来事に対して無感覚になる。……

自分のまわり一面に明々と輝く真理の光を持ちながら、それに対して感じない人々がいる。彼らは敵に魔法をかけられ、彼の魅惑の力の呪文の下にとらえられている。彼らはわたしたちの世にまもなく臨もうとしている大いなる日のために準備していない。彼らは宗教的な真理に対して全く無感覚のように見える。

目覚めている青年たちがいくらかいないのだろうか。夜が来、また朝が来るのを見る人々は、自分たちの眠っている仲間を、目覚めさせるために、うむことのない精力をもって働くべきである。彼らは彼らの危険を感じ、彼らのために祈り、彼ら自身の生活と品性によって、彼ら自身まもなくキリストが来られることを信じていることを彼らに示すことができないのであろうか。……永遠とわたしたちとの間の時間の余地が急速に減少していることがもっと深くわたしたちを印象づけるべきである。すぎゆく一日一日によって、品性を完全にするというわたしたちの働きを成し遂げるための日が一日ずつ少なくなっているのである。……

まさに永遠の世界の瀬戸際にいながら、眠っている者が多くおり、多くの者たちが貴重な時間を不注意に無関心に過ごしているときに、信じる者は酔いからさめていなければならず、目をさましていなければならず、熱心で勤勉になり、めざめて祈っていなければならない。……

愛する青年がたよ、あなたがたのランプの芯は整えられ、ともしびは燃えているのであろうか。(ユース・インストラクター 1886 年 8 月 25 日)

どこから背信が始まるか

「愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。」(ペテロ第二 3:17)

悪がはびこり、多くの人の愛が次第に冷えるこの終りの時代に、神はご自分のみ名に栄光を帰し、不義を責める者として立つ人々を持っておられる。この世が神の律法の規則を無効にしようとするときに、彼らは神の律法に忠実な「特別の民」となるのである。そして神の改心させる力がこのお方の僕たちを通して働くときに、暗黒の軍勢は、激しい断固とした反対のうちに徒党を組む。サタンは、「あらゆる力としるし、いつわりの奇跡、あざむき」をもって働く。彼は人の魂を惑わすために、あらゆる欺きの策略を用いるのである。……

背信は、神の律法のご要求に対する何らかの心のひそかな反逆のうちに始まる。聖くない願望、不法な野心が心にいだかれ、ほしいままにされて、不信仰と暗黒が、魂を神から引き離す。もしもわたしたちがそのような悪を征服しないなら、それらがわたしたちを征服するのである。

長く真理の道を前進して来た人々は、試練と誘惑によってテストされるようになる。サタンのほめかしに耳を傾け、自分たちの誠実からそれる人々は、道を下り始める。そして、何らかのたくみな誘惑によって彼らは背信の道にせきたてられ、ついに彼らの下り方はいちじるしい急降下となる。かつては最も嫌悪していた罪が、魅力的になり、神への畏れや神の律法への忠誠を振り捨てた人々によって歓迎され、実行されるようになる。しかし、不法において最も楽しく始めたことが、ついには悲惨さと墮落と破滅に終わる。

わたしたちは誘惑におちいらないように、たえず警戒し、見張り、祈る必要がある。霊的な誇りや、聖くない欲望、悪い考え、あるいは何であつてもイエスとの緊密で聖なる交わりから引き離すようなことにふけるなら、魂は危険にさらされる。わたしたちは、神を信じる生きた信仰を持たねばならない。……もし背信の思いがあなたにとって嘆かわしいものであり、真理の敵となることを願わないのであれば、……「悪は憎み退け、善には親しみ結」びなさい(ローマ 12:9)。(レビュー・アンド・ヘルド 1888 年 5 月 8 日)

12月8日

わたしはラオデキヤの民だろうか

「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。」(黙示録 3:15, 16)

神の子らであると主張する多くの人々の状態は、ラオデキヤ教会へのメッセージによって正確に表現されている。神に仕える人々の前に、計り知れない価値のある真理が開かれているが、これは実生活に持ち込まれるならば、神に仕える人々とそうでない人々との間の相違を示すのである。……

聖書は神の無尽蔵の富の宝庫である。しかし真理の知識を持つ人々は、可能なほどにはそれを十分に理解していない。彼らは、キリストの愛を心と生活に持ち込んでいない。み言葉の生徒は、自分が生ける水の泉にかがんでいることを見出す。教会はみ言葉の深い霊性を飲む必要がある。彼らの神への奉仕は、単調で命のない無感動な宗教経験、すなわち多くの信者を信仰のない人々と大差ない者としている宗教経験とは非常に異なったものになる必要がある。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 963, 964)

二心のクリスチャンは、不信者よりも、さらに悪い。なぜなら、彼らの欺瞞的な言葉やあいまいな態度は、多くの人々に道を踏み外させているからである。不信者は自分たちの旗色を明らかにする。しかし、なまぬるいクリスチャンは、双方の人々を欺く。彼は善良な世人でもなく、善良なクリスチャンでもない。サタンは彼らを用いて、他のだれにもできない仕事をさせる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 963)

自己愛は、キリストの愛を閉め出してしまう。自分のために生きる人々は、冷たくもなく熱くもないなまぬるいラオデキヤの教会のかしらのもとに連なっているのである。はじめの愛の熱意は、利己的な利己主義へと落ちてしまった。心の中のキリストの愛は、行動に表わされる。もしもキリストへの愛がにぶくなるならば、キリストが命をお与えになった人々への愛も退化していく。熱心さと儀式のすばらしい外見が見られるかもしれないが、これは彼らの自己にふくれあがった宗教の実態なのである。キリストは彼らをご自分に吐き気をもよおさせる存在として表しておられる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 962)

このような種類に属する人々がこれほど大勢いても、なおまだ悔い改めの時間があることを神に感謝しよう。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 963)

自己義というぼろの着物

「あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。」(黙示録 3:17)

自分たちはあらゆる真理を持っており、自分たちの神のみ言葉の知識を誇っているが、その生活には、聖化する力が感じられない人々の立場が、ここにはっきりと書かれていることだろう。彼らの心に神の愛の熱情が欠けているのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 961)

多くの人々は、霊的自己欺瞞のうちに生きているラオデキヤ人である。彼らは日ごとにイエスの柔和と謙遜を学ぶ必要があるときに、自分は富んでいる、豊かになった、何の不自由もないと想像し、彼ら自身の義の衣をまとっている。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 962)

自分は富んでいる、豊かになったと感じる人々のみじめさや裸を構成しているものは、何であろうか。それはキリストの義の欠乏である。自分自身の義のうちに、彼らは不潔なぼろをまとっているが、なおその状態で自分ではキリストの義を着ているとうぬぼれている者としてあらわされている。……彼らの心は聖くない商いや不義の取引で満たされているが、「主の宮、わたしたちは主の宮である」と叫ぶであろう。魂の宮の庭は、ねたみ、誇り、欲情、邪推、無情、無意味な形式主義のたまり場となっている。キリストは、生活や品性において真理がまったくないのに、真理の知識に富み、豊かであると感じる自称神の民を、悲しげに見つめておられる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 8 月 7 日)

イエスは次のように言われる、「あなたの救い主であるわたしは、あなたのわざを知っている。わたしはあなたが自分の霊的状态について、誇らしげに『自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もない』と宣言する動機をよく知っている。あなたは自分が『みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』と。……何という状態の中にいるのだろう。彼らは自分自身の光の中に立っているのである。

しかし、彼らの故意の無知にもかかわらず、主はさらに警告や勧告を加えることなく、彼らをとりこされることはない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 963)

しみのないキリストの義の衣

「そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。」(黙示録 3:18)

偉大なる救い主はご自身を、富を満載し、戸別訪問をしながら、ご自分の値のつけられないほど価値ある富を差し出しておられる天の商人として表現しておられる。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初刊・コメン] 7 巻 965)

わたしたちはイエスがわたしたちと共に宿することがおできになるために、魂の宮から売り買いする者を追い出さなくてはならない。いま主は、天の商人として心の戸口に立っておられる。このお方は次のように仰せになる、……「わたしに戸を開き、わたしから天の商品を買ひなさい。火で精錬された金を買ひなさい」、すなわち、わたしたちの贖い主の尊く美しい特質である、信仰と愛を買ひなさい。……このお方は、ご自分の栄光の義である白い衣と、また霊的なものを見分けることができるように目薬を買ひなさいとわたしたちに呼びかけておられる。ああ、わたしたちはこの天の訪問者に対して心の戸を開かないのだろうか。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初刊・コメン] 7 巻 964)

わたしたちは、自分で義の衣を備えることはできない。なぜなら、預言者は「われわれの正しい行い(義)は、ことごとく汚れた衣のようである」と言っているからである(イザヤ 64:6)。わたしたちのうちには裸の恥をさらさないために魂に着せるものは何もないのである。わたしたちは天の織機でおった衣、すなわちしみのないキリストの義の衣を受けねばならない。(レビュー・アソシエイト 1892 年 7 月 19 日)

目は敏感な良心であり、思いの内なる光である。物事を正しく見ることにこそ、魂と全存在の霊的な健康がかかっている。「目薬」、すなわち神のみ言葉は、それを適用するとき、良心に痛みを感じさせる。なぜなら、それは罪を自覚させるからである。しかし、痛みを感じることは、そのあとに癒され、神の栄光だけに目を留めるために必要なのである。……キリストは、あなた自身の自己満足を捨て、どんなに大事であつてもすべてを放棄することによって、あなたは金と衣と見えるようになる目薬を買うことができると仰せになる。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初刊・コメン] 7 巻 965)

救い主は、すべての偽物、見せかけのものとはまったく別物の最も価値のある真理の宝石を持っておいでになる。このお方はすべての家、すべての戸口へ来られる。このお方は、戸をたたき、値をつけられないほど高価なご自分の宝をさしだして、「わたしから買ひなさい」と熱心に勧めておられるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初刊・コメン] 7 巻 964)

励ましに満ちたメッセージ

「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。」(黙示録 3:19)

真の証人の勧告は、なまぬるい状態の人々を望みのないものとして表してはいない。彼らの状態を治療する機会はまだあるのであり、ラオデキヤ教会へのメッセージは励ましに満ちている。……心の純潔、動機の純潔が二心で神と富とに仕えようとしている人々の特徴となることもまだ可能である。まだなお、彼らは自分たちの品性の衣を洗い、それらを小羊の血で白くすることができるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 966)

信仰と愛という金、しみのない品性の白い衣、そして目薬、すなわち善悪をはっきりと見分ける力—これらはみな、わたしたちが神の王国に入ることを希望する前に、手に入れなければならないものである。しかし、これらの貴重な宝は、わたしたちの側で何の努力もせずに転がり込むものではない。わたしたちは買わなくてはならない、すなわちわたしたちは自分のなまぬるい状態を「熱心になって悔い改め」なければならないのである。自分の悪をみとめ、自分たちの罪を探り、それらを自分の中から捨てるために、目を覚ましていなければならない。……

わたしたちを救うことができるのは、キリストの価値であり、わたしたちを清めることができるのは、このお方の血潮である。しかし、わたしたちも努力する必要がある。自分のできることをしなければならない、すなわち熱心になって、悔い改め、そして神がわたしたちを受け入れてくださると信じなければならない。……

全天はわたしたちの救いに関心を払っている。それなのに、わたしたちは無関心になるのであろうか。自分たちが救われようが失われようが大したことはないかのように、不注意になるのであろうか。わたしたちのために払われた犠牲を軽んじるのであろうか。……

わたしたちの面前に迫る危機の時に、キリストに従う者と公言する人々はすべて試みられる。そして神の事柄について、深い、生きた経験を持つ者でなければ、だれも試みに耐えることができない。そのとき、すべての人のわががが試される。もしそれが金、銀、宝石であれば、それらは主の仮屋の奥に隠されるように安全に保管される。……

永遠の命のために喜んですべてを犠牲にする人々だけがそれを得る。しかし、永遠の命にはそのために苦しみ、自己を十字架につけ、すべての偶像を犠牲にする価値がある。はるかにすぐれた永遠の重い栄光は、すべての地上の宝をしのご、すべての地上の魅力はかすんでしまうのである。(ビュー・アンド・ワールド 1883 年 9 月 4 日)

12月12日

あなたは戸を開くであろうか

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示録 3:20)

イエスは言われた。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている」。わたしたちはイエスを中にお入れするであろうか。イエスはこの時代、すなわち終りの時の危険のただ中であって、わたしたちが自分自身の有限な力のままでいることをお望みにならない。……このお方のご臨在という日光のうちを歩み、自分たちが築いている品性の中に、快活さ、感謝、寛容、愛という黄金の糸を織り込むことが、わたしたちの特権である。こうしてわたしたちは神の恵みの力を示し、日々おとずれるあらゆる苛立ちや焦燥のただ中で、天からの光を反映することができる。……そうであれば、なぜわたしたちは光なく、つまづきながら進むのであろうか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 11 月 24 日)

神のみ言葉の中で、あるいは神の任命された使命者たちを通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中に入ることを求めておられるイエスのみ声である。ノックを無視するたびに、戸を開こうとする決心がますます弱くなる。イエスのみ声を一度無視すると、それは思いの中で多くの他の声と混同されるようになり、世のわずらいや問題がすっかり注意を奪うようになって、罪の自覚は消滅してしまう。心はだんだん感じなくなり、人生の短さについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 966, 967)

多くの人は心の戸の前にガラクタを積み上げているのでイエスをお入れすることができない。ある人々には、兄弟姉妹と自分との間に取り除くべき問題がある。他の人々には、悪い性質、誇り、貪欲がある。また他の人々の場合、世の愛が入り口をふさいでいる。彼らが戸を開き、救い主を歓迎することができる前に、これらはみな取り去らねばならない。

次の約束はなんと尊いことであろう、「わたしはそこの中に入って彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」。ああ、神の愛、神の驚くべき愛よ。わたしたちの生ぬるさと罪をことごとくご覧になってなお、神は次のように仰せになる、「わたしのものに帰って来なさい。そうすれば、わたしもあなたがたに帰ろう。そしてあなたのすべての背信をいやそう」と。(レビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 9 月 4 日)

わたしたちの仕事は心の戸を開いてイエスに入っていたくことである。このお方は入ろうとして戸をたたいておられる。……あなたはその戸を開くであろうか。イエスはあなたの心の戸のところに立っておられる。心の戸を開いてこの天来の尊いお客を迎え入れなさい。(手紙 110、1893 年)

勝利は保証されている

「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」(黙示録 3:21)

真の証人は、ご自分の名を信じる信仰によって、謙遜な服従の道を歩もうとするすべての人々に励ましを提示しておられる。このお方は、「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」と宣言なさる。これはわたしたちの身代わりであり、保証人であられるお方の言葉である。教会の聖なるみ頭であり、もっとも力強い勝利者であられるお方は、ご自分に従う人々に、十字架の場面に続くカルバリーへの道のりまで、侮辱を通じての、また拒絶、嘲笑、あざけり、侮蔑、冷笑、虚偽を通じてのご自分の生涯、ご自分の骨折り、ご自分の自己否定、ご自分の苦闘と苦しみを指し示される。それは、彼らが勝利者の賞与と報いの目標を目指して押し進むよう励まされるためである。勝利は信仰と服従を通して保証されている。

自分の各々の事情にキリストの言葉を適用しよう。わたしたちは、貧しく、目が見えず、そしてあわれむべき、みじめな者であろうか。それなら、このお方が差し出しておられる金と白い衣を求めようではないか。勝利のわざは、殉教者の時代に制限されているのではない。闘いは、世俗に対して、また自己防衛に対して、そして誇り、貪欲、偽りの教理、不死の放縱に対してたくみに誘惑するこの時代において、わたしたちのためである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 966)

わたしたちは、勝利できる。しかり、完全に、ことごとく。イエスはわたしたちに逃れの道を備えるために死なれた。それによってわたしたちがすべての欠点を克服し、すべての誘惑に抵抗し、そしてついにこのお方のみ座にこのお方と共に座することができるためである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 9 月 4 日)

わたしたちには教会のために失望させるメッセージがあるのではない。たとえ譴責、警告そして矯正がなされたとしても、なお教会は光を発散させる神の器となってきたのである。神の戒めを守る民は、世に警告を響かせてきた。……神の教会は生きた証人であり、もし受け入れるならば人々に罪を自覚させ、もし抵抗して拒絶するならば彼らを有罪に定めるたえまない証なのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 967)

教会は「月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう」(雅歌 6:10) に輝き出なければならないし、そうなるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 966)

12月14日

ふるわれる世にあって動かされない

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。」(詩篇 16:8)

わたしたちは危機の時代、すなわち不信心が当たり前の時代に生存している。クリスチャンであると公言する者さえ、自分たちの聖書を信じない。神のみ言葉の真理は、彼らにとってあまりにも率直で鋭いのである。……反キリストの考え、習慣、そして慣習が蔓延し、それらがクリスチャンになることであるとさえ解釈されている。しかし、最高の価値があり、神が最も高く評価しておられるものは、軽蔑してとり扱われている。神を畏れる者が、これらの事柄の結末は何であろうか、と尋ねることは良いことである。キリストに対する愛とお互いの愛が人々の心の中で急速に冷めつつある。……

悪がいたるところに蔓延している。なぜなら、サタンは時の短い事を知っていて大きな怒りをもってこの世に下って来たからである。彼は辛抱強く勤勉でうむことを知らない働き人である。だから、もし人が自分の右側にキリストのご臨在を必要とする時があるとすれば、それは今である。……わたしたちはたえず傍らに自分の救いの将を必要としている。

わたしたちのまわりにはいたるところに動揺があり、それは今後も続く。なぜなら、世の諸王国は落ち着くことがないからである。精神と態度において、キリストを否定する誘惑が現在ほど強い時はかつてなかった。そしてこの誘惑は、世の終りが近づくにつれてますます増大する。強力で圧倒的な誘惑が人々の上ののぞむ。偽りの教理や作り話があたかも聖書の真理のように人々に受け入れさせようとして提示される。そしてできれば選民をも惑わそうとするのである。しかし、罪が世に満ちているときに、わたしたちの愛が冷たくなってもよいだろうか。いまは安穩としている場合であろうか。わたしたちの助言者なる神から離れるべき時であろうか。

万物の終りは間近に迫っている。神の日はすぐにも来ようとしている。この世は犯罪と苦悩と悲しみに満ちている。陸にも海にも災害がある。嵐と暴風雨のために、わたしたちはほんの一瞬でも神から離れるとき、安全でない。この恩恵期間に信仰によって生きる者だけが、試みの日に耐えることができる。そのとき、ふるわれるべきものはすべてふるわれるが、彼らは安全に住み、また動かされることがないのである。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 19 日)

目前の危機

「またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人に対してあかしをするためである。」(マタイ 10:18)

神の民が地の為政者たちの前に自分の証をなすよう要求される時は、遠い先のことではない。わたしたちの歴史の中で自分たちがどれほど急速に大きな危機に向かって歩を進めているかを悟っている人は20人に1人もいない。……虚栄心や、軽々しい事柄のために、また思いを重要でもないことにふけらせるための時間はない。(レビュー・アソド・ヘラルド 1892年4月26日)

王たち、為政者たち、また要職にある人々は、あなたがたに敵意を持つ人々の報告を通して、あなたがたの言うことを聞くことになる。そしてあなたがたの信仰や品性は彼らの前に誤り伝えられるだろう。しかし、偽って告発される者たちは、自分たちを告発する者たちの前に出て、自ら弁明する機会を持つようになる。彼らは地上の偉人と称されている人々の前に光をもたらす特権を得る。もしあなたが聖書をよく研究してきており、柔和と畏れをもってあなたのうちにある望みについてたずねるすべての人に答える用意ができていいるなら、あなたの敵たちはあなたの知恵に反駁できないのである。

あなたには今、神のみ言葉の研究を通して最大の知力を得る機会がある。しかしもしあなたが怠惰で、真理の鉱脈を深く掘り下げないならば、まもなくわたしたちに臨もうとしている危機のための備えができないのである。ああ、一瞬一瞬が金であることをあなたが悟ればよいのだが。もしあなたが神のみ口から出る一つ一つの言葉によって生きるならば、あなたが準備できていないことを見出されることはない。(レビュー・アソド・ヘラルド 1892年4月26日)

あなたにはどこで真理の証を立てるように召されることになるかはわからない。多くの人々は、裁判所で立たなければならなくなる。またある人々は、諸王の前で、あるいは地の知者たちの前で自分たちの信仰のために答弁しなければならなくなる。真理を表面的にしかり理解していない人々は、聖句を明白に詳細に説明することができず、また自分の信仰のはっきりとした理由を述べることができない。彼らは混乱してしまい、恥じるところのない鍊達した働き人とはならないのである。だれ一人として、講壇で説教しないのだから研究する必要はないなどと夢想だにしないようにしよう。あなたは神があなたに何を要求なさるかわからないのである。(クリスチャン教育の基礎 217)

12月16日

あなたはテストのために 準備ができているか

「彼らがあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。」(マタイ 10:19)

キリストの僕は、自分の信仰を調べられるために引き出されるときに定まった話を用意しておくべきではない。彼らの準備は日々なされるべきであり、自分たちの心に神のみ言葉の尊い真理を蓄え、キリストの教えを食し、そして祈りを通して自分の信仰を強めることによってなされるべきである。そうすれば、調べるために引き出されたとき、聖霊は、まさに聞くために来る人々の心の底にまで届く真理を彼らに思い起こさせてくださる。神は聖書を勤勉に探ることによって得た知識を、まさに必要としている時に、彼らの記憶にひらめかせてくださる。(安息日学校への勧告 41, 42)

今、あなたは悩みの時のために準備しなければならない。今、あなたは自分の足が永遠の岩の上に置かれているかどうかを知らなければならない。あなたは個人的な経験を得なければならない、自分の光のために他人にたよってはならない。あなたがテストされるために引き出されるとき、自分の傍らに地上の友人がいなくても、どのように自分が一人ではないと知ることができるであろうか。そのとき、あなたはキリストがあなたの支えであられることを悟ることができるであろうか。そして、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」とのみ約束を思い出すことができるであろうか。目には見えないが、あなたを滅亡させようと決意している者たちがあなたの四方を取り巻いている。サタンとその使たちは、神とその真理に対するあなたの堅固さを動揺させようと、あらゆる方法で努力している。しかしもしあなたがこのお方の栄光にのみ目を留めているならば、あなたはこのお方の真理のためにどのように証するかについて案じる必要はない。(ビュー・アンド・ワールド 1892 年 4 月 26 日)

若い青年男女よ、あなたがたはキリストにある満ち満ちた男女へと成長し、それによって、危機がおとずれるときに自分の強さの源であられるお方から離れることができないほどになっているだろうか。もしわたしたちがテストの時に耐えることを願うなら、わたしたちは今、平和の時に、神の事柄において生きた経験を得ていなければならない。今、神の御霊の深い感動が、何であるかを学ばねばならない。キリストはわたしたちにとってすべてのすべてとなり、またアルパとオメガとなり、そして最初と最後、初めと終わりにならなければならない。(ビュー・アンド・ワールド 1892 年 5 月 3 日)

獅子の口から

「また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。」(マタイ 10:28)

ダニエルはキリストを告白するということが何を意味するかについての信徒たちの模範である。彼はバビロンにおいて総理大臣という責任の地位にあり、宮廷の偉人たちの中にはダニエルをねたんでいる人々がいた。そして、彼らは彼に対して王に訴えるべき口実を見つけようと願った。しかし、彼は忠実な政治家だったので、彼らはその品性にも生活にも何の落ち度も見出すことができなかった。……そこで彼らは、今から 30 日の間は、王以外の神または人に願い事をなしてはならないこと、そしてもしこの禁令に従わない者があれば、だれでもその者をししの穴に投げ入れるという禁令を作るように王に願うことで互いに合意した。

しかし、この禁令が施行されたからといって、ダニエルは神に祈ることをやめたであろうか。否、その時こそ、彼が祈る必要のある時であった。……ダニエルは神に対する忠誠を隠そうとはしなかった。彼は心の中で祈ったのではなく、大きく、声を出して、エルサレムに向かって窓を開いて、彼の願いを天に向かってささげた。そこで彼の敵たちは、王に訴え、ダニエルは獅子の穴に投げ込まれたのである。しかし神の御子がそこにおられた。……王は朝早くやってきて、呼んだ。「生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか。ダニエルは王に言った。王よ、どうか、とこしえに生きながらえられますように。わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした」。(ダニエル 6:20-22) ……

わたしたちは、自分の命がキリストと共に神のうちに隠されているなら、信仰のゆえに裁判に引き出されても、イエスが共にいてくださることがわかる。わたしたちが自分の信仰のために答弁するために、この世の為政者や高官たちの前に引き出されるとき、主の霊がわたしたちの理解力を照らしてくださり、わたしたちは神の栄光のために証を担うことができる。そしてもしわたしたちがキリストのゆえに苦しむように召されるとき、わたしたちは、幼子が親に信頼しているように、神に信頼して、獄に向かうことができるのである。今こそ神を信じる信仰を培うべき時である。(ビュー・アofd・ヘルド 1892 年 5 月 3 日)

12月18日

火のただ中で

「だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。」(マタイ 10:32)

キリストを告白するとは、公の〔祈祷〕会で証をすること以上のことを意味している。(レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 5 月 3 日)

わたしたちにはなすべき告白があり、それは自分たちがしてきた告白とは異なるものである。そして、わたしたちは様々な状況下で告白をしなければならなくなる。三人のヘブル人は燃えさかる炉の火の前でキリストを告白するよう要求された。彼らは王の作った金の像に伏して礼拝するように命じられ、それに従わないならば生きたまま炉の火の中に投げ込むと脅されたが、彼らは答えた。「この事について、お答えする必要はありません。もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません」(ダニエル 3:16-18)。キリストを告白することは、彼らに何らかの代価を要求した。なぜなら、彼らの生命がかかっていたからである。

そこで王は炉の火を平常より七倍熱くせよと命じ、それからこの三人の忠実な神の子らは炉の火の中に投げ込まれた。「その時、ネブカデネザル王は驚いて急ぎ立ちあがり、大臣たちに言った、われわれはあの三人を縛って、火の中に投げ入れたではないか。彼らは王に答えて言った、王よ、そのとおりです。王は答えて言った、しかし、わたしの見るのに四人の者がなわめなしに、火の中を歩いているが、なんの害をも受けていない。その第四の者の様子は神の子のようだ」(ダニエル 3:24, 25)。……そこでネブカデネザル王は神の僕たちを呼び出した。彼らの上には火のにおいもついていなかった。もしあなたがキリストのゆえに燃える炉の火の中を過ぎるなら、イエスはあなたの傍らにおられる。「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない」(イザヤ 43:2)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 5 月 3 日)

風と潮流に対する戦い

「わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」(マタイ 5:11, 12)

わたしたちの恵み深い贖い主は、時の流れを先まてご覧になり、そしてご自分の選ばれた者たちを終りの時に取り囲む危険をご覧になった。……

もし教会員が真理のみ事業を築き上げるために忠実に働くならば、うわさ話や虚言や中傷の舌を免れない。「いったい、キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(テモテ第二 3:12)。彼らの一貫した揺るがない一連の行動は、偽善的な公言者の不信と誇りと利己心に対するたえざる譴責である。

彼らの祈りと訓戒は、偽善的な公言者の世間的野心を妨げる。そこでその人は、イエスに忠実に従う者に非難を投じようと努力する。彼はキリストに敵対したパリサイ人たちを動かしたのと同じ精神で、事実をゆがめ、曲解させ、そして偽り伝えるのである。

イエスは非常にたくさんの失望を味わうご自分の民を見失ってはおられない。人気のある流れと共に漂うにはほとんど努力はいらないが、不死の岸辺に着きたい人々は、風と潮流に逆らって苦闘しなければならない。改革する力のないキリスト教の一つの形式—まがい物—がある。その形式を持つ者たちは他人の信仰に反対し、非難するのを喜ぶ。彼らの宗教は市場や、家庭、あるいは職場ではみられない。彼らの宗教的経験はこの世の墮落した水路の中を走るのである。

キリストに真に従う者は、これらの種類の人々から非難を受けても失望落胆すべきではない。愛された使徒は言った、「兄弟たちよ。世があなたがたを憎んでも、驚くには及ばない」(ヨハネ第一 3:13)。そしてわたしたちの救い主はご自分の弟子たちに「もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい」と指摘なさった(ヨハネ 15:18)。神に忠実な者たちは、非難や反対によって損なわれることはない。そうではなく、むしろこのようにして、繁栄の日光の中では繁茂することのない徳が発達させられるのである。信仰、忍耐、柔和、そして愛は、黒雲と暗黒のただ中で芽を出し、花を咲かせるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 1 月 12 日)

12月20日

最も危険な敵

「しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに氣をとられて、信仰から離れ去るであろう。」(テモテ第一 4:1)

魂の敵は枝葉の問題をもって来ることによって、絶えずわたしたちの思いをわきへそらそうと努めている。欺かれてはならない。あなたの名もわたしの名も、敵のしたいように扱わせなさい。わたしたちの言葉や行いを、彼らが曲解し、偽り伝えてもかまわない。彼らがやりたいようにすぎなだけ、偽りを捏造(ねつぞう)させなさい。わたしたちは自分の思いがイエスからそらされたり、またこのお方と平和のうちにお会いするためになくってはならない魂の準備からそらされたりすることを許すわけにはいかない。……わたしはキリストに代ってあなたにお願いする。かつて祈ったことがないほど、信仰と愛を真剣に求めて祈りなさい。それらはほとんどこから消えてしまったかのように見える。一日一日、神の御前にあるかのように生きなさい。……

神が警告や教えのメッセージと共にあなたに遣わされた人々に非難を投げかけることによって、偽りの教師たちがあなたの思いを混乱させ、あなたの信仰を不安定にするようなことがないようにしなさい。あなたが相手にしなければならぬのは、単なる人間ではなく、「もろもろの支配と、権威と、また天上にいる悪の霊」であることを覚えなさい。今こそサタンがあらゆる不義の惑わしをもって働いている時である。

多くの人々は、実際には、キリストの旗の下で仕えていると公言しながら、自分たちの戦いを戦っている。これらの宿営にいる裏切り者たちは疑われないかもしれないが、不信、不和、争いを作り出すために働いている。このような者たちが一番危険な敵である。彼らはわたしたちの好意につけこみ、わたしたちの信頼と同情を得る一方で、彼らは忙しく疑いをほのめかし、疑念を生み出すのである。彼らはサタンが天で天使たちを巧妙な説明をもって欺いたのと同じ方法で働き、光にかえて闇を置き、神の慈悲と寛容を苛酷さと厳格さのごとく見せかける。サタンは初めに働いていたように、終わりににも働く。ただ、見えないようにもつと完璧に自らの身を隠すだけである。……

わたしたちは真理の理論を知っているだけでは充分でない。その原則が魂の中で働き、生活の中に具体化しなければならない。そうでなければ、わたしたちは世の終わりのために準備された欺瞞の餌食となってしまうのである。(ビュー・アヴ・ヘラルド 1883年8月28日)

冠の前の十字架

「いったい、キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(テモテ第二 3:12)

わたしたちは、頻繁に十字架の下に行き、そこで救い主の屈辱を瞑想することによって、自分たちの信仰を強め、自分たちの愛に息吹を与えることができる。罪人として苦しんでおられる天の全能者を見よ。しみのない純潔や色あせていない義は、このお方を欺きや非難から守ることはなかった。このお方は柔和にご自分に対する罪人たちの矛盾した言動をしのばれ、ご自分の命を明け渡された。それはわたしたちが許され、永遠に生きることができるためであった。わたしたちはこのお方のみ足のあとによろこんで従うであろうか。わたしたちが現在より大きな迫害にあっていない唯一の理由は、わたしたちが自分の生活においてもっと忠実にキリストのご生涯を具体化していないからである。兄弟姉妹方よ、わたしは確かに言うが、もしあなたがたがキリストのように歩むならば、このお方のために迫害され、非難を受けるということが、どういうことかを知るようになる。

もしわたしたちが王冠をかぶることを望むなら、十字架をになうことを予期せねばならない。わたしたちの最大の試練は、信心を告白する者たちから来る。世の贖い主の場合もそうであった。このお方に従う者たちの場合も同様である。……永遠の命の冠を得ようと真剣な者は、天のカナンへ向かう一歩ごとに障害に直面し、試練に遭うからといって、驚いたり、落胆したりする必要はない。……

救い主は何が最善かをご存知である。信仰は疑いや困難や試練との闘いによって成長する。徳は、誘惑に抵抗することによって力を集結する。忠実な兵士の生涯は闘いと進軍である。同胞なる旅人よ、天のカナンのこちら側に、休息はないのである。……しかし、ヨハネは聖なる幻のうちに、忠実な魂たちが大きな患難をとおつてきて、神のみ座を囲んで、白い衣をまとい、不死の栄光をもって冠される光景を見た。彼らは地上の落伍者だとみなされてきたのではなかったか。調査審判において彼らの生活と品性が神の御前で調査され、その厳粛な法廷で彼らの敵の判決はくつがえされる。神とそのみ言葉に対する彼らの忠誠が明らかにされ、そして天の高い誉れは、罪とサタンとの戦いの勝利者として彼らに授けられるのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1883 年 8 月 28 日)

12月22日

一瞬一瞬警戒する

「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。」(テモテ第二 23:13)

考えられる限りの策略をもって、敵はわたしたちの警戒を解こうとねらっている。彼はまずなめらかな言葉と巧妙なほめかしで欺こうと企てる。それが失敗すると今度はあからさまな暴力へと進む。彼は不注意な足をとらえるために、深くたくらんだわなをたくさんもっている。そして一度それにかかるそこから自分で抜け出すことは、ほとんど不可能であることがわかる。彼はある人を賞賛し、へつらい、おだてる一方では、他の人に向かって火のような矢を射る。わたしたちは一瞬一瞬警戒せねばならない。特別な試練、困難、そして危険の日々はわたしたちの目前にある。……

事態は良くなる代わりに、悪人や欺きの教師たちが人を惑わし、人に惑わされ、悪から悪へと落ちていくということを覚悟しなければならない。わたしたちはかつて経験したことがないほどの反対に会うことを予期することができる。……いまキリストを自分の避け所としなければならない。さもなければ、わたしたちの目前にある日々に、わたしたちの魂は、暗黒と絶望に圧倒されてしまうであろう。人間の助けが無力な地点が、あなたにある。すべての者は、暗黒の勢力と間近に戦うあきらかな死闘に入ることを余儀なくされるとき、信仰によって生きなければならない。一人ひとりが自分で立つか倒れるかしなければならないのである。破壊者の矢は、今にも忠実な者に向かって放たれようとしている。そしてどんな地上の権力も矢の向きを変えることはできない。しかし、もしわたしたちの目が開かれるなら、義人のまわりに陣をしいて、どんな害も及ぶことがないようにしている神の天使たちを見ることができるようである。……

わたしたちはイエスをながめ、み言葉を研究し、聖霊を求めて祈らねばならない。わたしたちはもっと頻繁に瞑想と祈りのうちに神と二人だけになるべきである。もっと多く祈り、もっと少なく語ろう。わたしたちは自分自身の知恵や自分自身の経験、また自分自身の真理の知識にたよることはできない。わたしたちは日々学ぶ者となり、教えを求めて自分たちの天の教師をあおいでいなければならない。そしてその後、安逸や楽しみや都合を考えずに、わたしたちを召してくださったお方は忠実であることを知りつつ、前進しなければならないのである。……

自分の弱さを自覚しながら、このお方の強さにより頼み、このお方が与えてくださる恵みによって勝利者となろうではないか。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1883年8月28日)

忠実な者に与えられる冠

「今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」(テモテ第二 4:8)

異邦人のための偉大な使徒は、パリサイ主義をキリストの福音に替えたときに、何か本当に犠牲を払ったのであろうか。わたしたちは、いいえと答える。断固とした目的をもって、彼は富からも、友人たちや社会的な名誉からも、公の名誉からも、そして彼が熱烈に熱く愛していた親族からも背を向けた。彼は自分の名と自分の運命を、それまで低くみくぶり、万事につける落伍者のように思っていた人々のそれと結びつけることを選んだ。だが、キリストのゆえに、すべてを失ったのであった。

彼の働きは、他のどの弟子たちよりも多く、その打たれたむちの数ははるかに多かった。彼はついでに打たれ、石を投げられ、難破し、しばしば死にかけた。彼は陸と海の難、都会の難、荒野の難、盗賊の難、また同国民の難にあった。彼は絶えざる弱さの下で使命を遂行し、痛みと、疲労のうちにあって、たびたび眠れない夜をすごし、寒さに凍え、裸でいた事もあった。……彼が血に飢え、渇いたネロの前に立ったとき、そばにはだれもいなかった。……

しかし、パウロはその貴重な時間を自分の嘆かわしい虐待を述べるために捧げたのであろうか。否、彼は自分自身からイエスへと注意を向けさせた。彼は自分自身の幸福のために生きていたのではなかったが、なお彼は幸福であった。……「あらゆる患難の中にあつて喜びに満ちあふれている」(コリント第二 7:14)。そして彼の生涯の最後の日々に、殉教の死を目の前にして、彼は満足して「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」と叫んだ(テモテ第二 4:7)。そして、不死の将来、すなわち、その全経歴を通じて彼を鼓舞した壮大な動機にしっかりと目を留め、彼は信仰の確信に満ちあふれて次のように加えた。「今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。——そして、他の人々のために生きてきたこの人物は、己を忘れる——「わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう」。ああ、なんと気高い信仰の持ち主であろう。(手紙 1、1883 年)

使徒パウロはすべての真のクリスチャンがどのようになるべきかという生きた模範であった。彼は神の栄光のために生きた。……「わたしにとっては、生きることとはキリストである」(ピリピ 1:21)。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1112)

12月24日

高い目標を目指しなさい

「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり」(コロサイ 2:9, 10)

わたしたちはあまりに低い目標しか目指さない。目標はもっと高いのである。わたしたちの思いは広がる必要がある。そうすれば神の備えられたものの重要性が理解できるようになる。わたしたちは神のご品性の最高の特性を反映すべきである。……神の律法は、わたしたちがキリストの着せられる義を通して達すべき高められた標準である。(レュー・アッド・ハルド 1892 年 7 月 12 日)

キリストにあって完全なものとなり、愛されたお方のうちに受け入れられる可能性は、このお方の使命と働きを正しく理解する事によってのみ、わたしたちの手の届くところにもたらされる。……人間の科学は、神の啓発ではない。神の科学は聖霊の実証であり、このお方を信じる絶対的な信仰を吹き込む。この世の人々は、この信仰が自分たちの偉大にして知的な思いの注目にはおよばないもの、すなわち注意を払うにはあまりにも低いものと考えている。しかしここで彼らは大きな間違いを犯している。信仰は人間の知力が到達するにはまったくもってあまりにも高すぎるのである。

福音のメッセージは、真の知識や知的な学問と対立するところではない。それ自体が真の科学であり、知的な知識である。真の知恵は、この世の賢者の理解を無限に越えている。隠された知恵、すなわちうちにかたちづくられたキリスト、栄光の望みは、天と同じように高い知恵である。信心の深い原則は、崇高にして永遠のものである。クリスチャン経験のみがこの問題を理解させるために、また神の勧告の中に隠されてきたが、今やキリストと生きたつながりを持つすべての人に知らされた知識の宝を得させるために、わたしたちを助けることができる。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・初作・コメン] 6 巻 1113, 1114)

キリストのうちに神の徳が満ちみちている。これこそ、このお方がわたしたちと同じようにすべての点に誘惑されながら、世の前に、このお方がはじめて世に入ってこられた時から、墮落に取り囲まれていたにもかかわらず、それに染まることのなかった理由である。わたしたちもまたその神の満ち満ちた徳にあずかる者とならないのであろうか。そしてこうして、またこうしてのみ、わたしたちはこのお方が勝利なさったように、勝利することができるのではないだろうか (SDA パイブル・コメンタリ [E・G・初作・コメン] 7 巻 907)

キリストの犠牲を通して、人間は自分の前に定められた高い理想に到達することができる。そしてついには次の言葉を聞くのである。「あなたがたは、キリストにあって完全なのである」。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・初作・コメン] 7 巻 907)

キリストの無尽蔵の富

「どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように」(エペソ 3:16)

贖いの主題は、わたしたちにとってきわめて重大な主題であり、霊的な思いを持つ者だけが、その深さと重要性を見極めることができる。救いの計画の真理について熟考することが、わたしたちの安全であり、また喜びである。信仰と祈りは、わたしたちが神の深い事柄をながめるために必要である。わたしたちの思いは、あまりにも狭い考えにしばられているため、特権として得ることのできる経験を限られた視野でしか捕えられないのである。……

キリストを信じると言言する多くの人々が、なぜ敵の誘惑に対して耐える力をもっていないのであろうか。それは、彼らの内なる人が、御霊により、力をもって強くされていないからである。使徒は次のように祈った、「また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように」(エペソ 3:17-19)。もしわたしたちにこの経験があるなら、カルバリーの十字架について何かがわかるであろう。わたしたちはキリストの苦難においてこのお方にあずかる者となるということがどういう意味かを知りたいものである。キリストの愛がわたしたちに迫っている。そして、どのようにキリストの愛がわたしたちの心を温めたかを説明することはできないけれども、わたしたちはこのお方のみ事業への熱烈な献身のうちにこのお方の愛を表したいのである。

パウロはエペソ教会の前で、最も包括的な言葉のうちに、彼らがいと高さお方のむすこ娘として、持つことのできる驚くべき力と知識を明らかにして見せた。「力をもって強くされ」、「愛に根ざし愛を基とし」……「人知をはるかに越えたキリストの愛を知る」ことが彼らのものであった。……

エホバ・インマヌエルーあらゆる知恵と知識の宝が隠されているお方—このお方の特性を受けようとして、またこのお方の愛と力を知ろうとして、またキリストの無尽蔵の富を所有しようとして、ますます心を開く時に、このお方と共鳴するようになり、このお方を所有するようになる。……これは主の僕たちの嗣業であり、「彼らがわたしから受ける義であると主は言われる」(イザヤ 54:17)。(レビュー・アンド・ヘルド 1908 年 11 月 5 日)

12月26日

神に満ちているものをもって 満たされる

「また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。」(エペソ 3:19)

ここにわたしたちが天父のご要求を満たすとき、このお方のみ約束を信じる信仰を通して、わたしたちが到達することのできる高さが明らかにされている。キリストの功績を通して、わたしたちは無限のみ力のみ座の許に行くことができる。「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか」(ローマ 8:32)。

一度キリストの愛を味わい知った心は、絶えずより深く飲もうと叫び求める。そしてあなたが与えるとき、ますます豊かに、ますます豊富に受けるのである。魂に対する神のすべての啓示は、知って愛する能力を増し加える。心の絶えまない叫びは、もっとあなたを、であり、それに対する聖霊の答えは、それよりはるかに多く、である。……

キリストの生涯は、神の愛の聖なるメッセージに満たされた生涯であった。そして、このお方はその愛を豊かに他の者たちに与えたいと激しく切望された。その御顔からはあわれみの光が輝き出て、このお方のふるまいは恵みと謙遜、愛と真理に特徴づけられていた。このお方の戦う教会のメンバーは、勝利の教会に加わりたのなら、同じ資質をあらわさなければならない。キリストの愛は、非常に広く、非常に栄光に満ちているので、それに比べると、人間が非常に偉大だと評価するものはみなだんだん小さくなり、無意味なものとなってしまう。わたしたちがそれを見ることができるとき、神がそのひとり子を人類のためにささげられた愛の富はいかに深いことか、と叫ぶ。……

それは肉における神の奥義であり、キリストのうちの神であり、人性における神性である。キリストは比類のない謙遜さをもってかがまれたが、それはご自分が神のみ座にまで高められるとき、キリストがご自分を信じる者たちもまた高めて、ご自分とともにご自分の座につくことができるようにするためであった。……「わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて」、わたしたちに「このお方の知識における知恵と啓示との霊を」与えてくださる(エペソ 1:17 欽定訳)。それはわたしたちが「すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解する事ができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知る」ためであり、わたしたちが「神に満ちているもののすべてを持って満たされる」ためである。(ビュー・アンド・ヘルド 1908 年 11 月 5 日)

もうすぐ家郷へ！

「そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:3)

救い主がご自分の再臨のみ約束をなさってから、1800年以上の時が経過した。幾世紀ものあいだ、救い主のみ言葉は、このお方に忠実に従う者の心を勇気で満たしてきた。約束はまだ成就していない。……しかし、それにもかかわらず、語られたみ言葉は確かである。(ビュー・アンド・ハルド 1913年11月13日)

キリストはご自身の栄光と、そのみ父の栄光と、また聖天使たちの栄光のうちに来られる。千々万々の天使たち、美しく勝利にみちた神の子らが、卓越したうるわしさと栄光をもって、このお方の道中を先導する。いばらの冠の代わりに、このお方は栄光の冠一冠の中の冠一をかぶられる。あの古い紫の衣の代わりに、「どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらい」(マルコ 9:3) 最も白い衣をまとわれる。そして彼の着物にも、そのものにも、「王の王、主の主」という名がしるされるのである(黙示録 19:16)。……

忠実に従う者たちにとって、キリストは日ごとの連れ合いであり、親しい友である。彼らは神との緊密で絶えざる交わりのうちに生きてきた。神の栄光は彼らの上に昇った。彼らのうちにイエス・キリストのみ顔にある神の栄光の知識の光が反射する。彼らは今、その大権のうちにおられる王のくもりのない輝きと栄光の光線のうちに喜ぶ。彼らは天との交わりのために準備ができている。なぜなら、彼らの心の中に天があるからである。

頭をもたげて、自分たちの上に義の太陽の燦然たる光線を浴び、自分たちの贖いが近づいていることを喜び、彼らは聖なる花婿に会うために出て行く。そして「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」と叫ぶ(イザヤ 25:9)。

長く待ち続けた時はまもなく終ろうとしている。長い間より良い地を探し求めてきた寄留者や旅人たちは、ほとんど家郷にたどり着いた。わたしは、家路についている！と叫ばずにはいられないように感じる。……「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい」(ペテロ第二 3:14)。(ビュー・アンド・ハルド 1913年11月13日)

12月28日

内側の輪の中に

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。」(黙示録 3:5)

青年たちよ、あなたがたは喜びの希望と期待をもって、主、すなわちあなたがたの義なる審判者がみ父と御使たちの前であなたの名を言い表わされる時を待ち望むことができるであろうか。あなたがたのできるキリストの再臨に対する最良の準備は、キリストの初臨の時にわたしたちにもたらされた偉大な救いを信じる固い信仰をもって安んじることである。あなたがたは、キリストを自分の個人的な救い主として信じなければならない。(ユース・インストラクター 1897 年 1 月 28 日)

わたしたちのうちの多くの者は、神の民として自分たちが神のみ前にどのような契約関係にあるかを自覚していない。わたしたちは神とキリストをあらわすべき最も厳粛な義務の下にいる。わたしたちは神の民だと公言しながら、このお方のみ旨の正反対に向かうことによって、このお方を辱めることがないよう、警戒しなければならない。わたしたちは動く準備ができつつある。そうであれば、わたしたちは準備ができたかのように行動しようではないか。キリストがご自分を愛する者たちのために備えに行かれた天のすまいのために準備しよう。(世界総会冊子 1903 年 4 月 1 日)

この時代のための真理を信じると主張する人々が、地上において、将来の人生のために神の訓練に服しない限り、神なる王をそのうるわしさのうちに見ることは決してない。……お互いの間で忍耐、親切、柔和、善意、同情、そして優しいあわれみを培わなければならない。あらゆる粗暴で、無作法で、キリストに似ていない性質はすべて清められなければならない。なぜなら、これらの不親切な特質はどれもキリストに属するものではなく、サタンの種類にしたがうものだからである。人間が神性にあずかる者となる時にのみ、純潔な天来の恵みは思いと心と品性に受け入れられ、繁茂する。……上にある天の住まいに入るすべての魂にとって、天は地上で始まらなければならない。(原稿 29、1892 年)

全天は、神の都でキリストと共にいる者になろうと、永遠の命の冠のために戦っている者たちの苦闘を高く評価する。……神はあなたにそこにいてほしいのである、キリストはあなたにそこにいてほしいのである、天の万軍はあなたにそこにいてほしいのである。御使たちは喜んで外側の輪に立ち、イエスの血によって贖われた者たちを、内側の輪に入れてくれる。……栄光の冠は信仰のよき戦いを戦うすべての者を待っている。(原稿 21、1895 年)

棚卸をしよう

「主よ、わが終りと、わが日の数のどれほどであるかをわたしに知らせ、わが命のいかにはかないかを知らせてください。」(詩篇 39:4)

もう一年が永遠にほとんど過ぎ去ってしまった。……もうすぐ過去となってしまう今年の記録を振り返ってみよう。わたしたちはクリスチャン経験でどのような進歩をしただろうか。わたしたちの働き一各々にそれぞれの能力に応じた働きをお与えになった主なるお方の検閲を受けるに耐える働きを、わたしたちはしたであろうか。その働きは保存する価値のない干し草や木や刈り株のように焼き尽くされるのだろうか。あるいは火による試みに耐えるのだろうか。……

わたしたちが神の標準を満たすキリスト・イエスの徳の高さに到達することができるために、あらゆる備えがなされている。神は、ご自分の代表者がキリストにおける男女の満ちみちた徳の高さにまで成長することができるときに、小人であることに満足するなら、彼らをお喜びにならない。このお方はあなたがクリスチャン経験において高さや広さを持つことを望んでおられる。あなたが大きいな思想、気高い向上心、真理についてのはっきりとした認識、そして行動の高遠な目的を持つことを望んでおられる。過ぎ去って行く一年一年が、クリスチャン品性の純潔と完全への魂の切望を増すものでなければならない。そしてもしもこの知識が日ごとに、月ごとに、年ごとに増していくなら、干し草や木や刈り株のように焼き尽くされる働きとはならない。そうではなく、金、銀、そして宝石一朽ちるものではなく、終わりの日の火に耐える働き一が礎石の上に積まれるのである。

わたしたちの地上の、世俗の働きは精密な吟味に耐える完全さ、誠実さをもってなされているだろうか。わたしたちが悪いことをした人々、神の日に、わたしたちに不利な証言をする人々はいらるだろうか。もしもそうであるなら記録は天に上げられ、わたしたちはその記録に再び直面する。自分の勤勉な努力が人々に見られ正しく評価されようが、されなかりうが、仕事を割り当てる偉大なお方のために働かなければならない。男女だれも、あるいは子供であつても自分の仕事が世俗のことであろうと宗教上の奉仕であらうと、不注意で、でたらめな、ごまかした働きで、神に受け入れていただける奉仕をすることはできない。真のクリスチャンは、万事につけ、神の栄光にのみ目を留め、自分の目的を促進し、また「わたしはキリストのためにこうする」という考えをもって自分の原則を強化するのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 12 月 16 日)

12月30日

すべての苦々しい思いを葬る

「わたしの日は機（はた）のひよりも速く」（ヨブ記 7:6）

もしもわたしたちにほとんど時間がないのであれば、そのわずかの時間を熱心に向上させよう。聖書はわたしたちが贖いの大いなる日に生存していると確かに言っている。象徴的な大贖罪の日は、全イスラエルが神のみ前で身を悩まし、自分の罪を告白し、魂の悔恨、自分の罪への良心の呵責、本物の悔い改め、そして贖いの犠牲を信じる生きた信仰をもって主のみ前に来た。

もしもそこに困難があったなら……もしもねたみ、悪意、苦々しい思い、邪推が存在していたなら、大まかなやり方ではなく、個人的に兄弟姉妹のもとに行ってこれらの罪を告白しなさい。明確でありなさい。もしもあなたが一つの不正を犯し、彼らが二十の不正を犯しているなら、その一つの不正をあなたは罪人のかしらであるかのように告白しなさい。彼らの手を取って、神の御霊の感化のもとにあなたの心を和らげ、「わたしを許していただけますか。わたしはあなたに対してよい感情をもっていませんでした。天の書にわたしへの罪の記録が記されることがないように、あらゆる不正を正したいのです。わたしはきれいな記録を残さなくてはなりません」と言いなさい。このようにするとき、だれが許さずにいられるであろうか。

あまりにも冷淡さと無関心—あまりにも「わたしには関係ない」という精神—が、キリストに従う者であると公言する人々の中で働いている。すべての者が互いに思いやり、お互いの利益を注意深く守らなければならない。「互いに愛し合いなさい」。そのとき、わたしたちはサタンの策略に対して強力な壁を築くことになる。迫害と反対のただなかで、わたしたちは復讐心のある者たちに連なることなく、また兄弟を告発し、彼らの品性を中傷し、品性に泥をなすりつけることを特別の働きとする大反逆者と一致することはない。

この年の残る日々に、苦い根のあらゆる繊維を断ち切り、それらを古い年と共に墓の中に葬ることによってより良いものとしよう。主の家族のメンバー一人一人にもっと優しい思いやりともっと深い愛をもって新しい年を始めよう。共に前進しよう。「団結する時にわたしたちは立ち、分離する時にわたしたちは倒れる」。あなたが以前に取っていたよりも、もっと高く、もっと気高い立場を取りなさい。（レビュ・アンド・ハルド 1884 年 12 月 16 日）

わたしたちの高い召しの賞与

「兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおける神の高い召しの賞与を得ようと努めているのである」(ピリピ 3:13, 14 欽定訳)。

健全で均整のとれた品性を築きたいと思う者、よく釣り合いのとれたクリスチャンになりたいと思う者は、キリストのためにすべてをささげ、このお方のためにすべてをしなければならない。……パウロは多くの事をした。キリストに忠誠をささげて以来、彼の生涯はたゆまない奉仕に満たされていた。町から町へ、国から国へと旅を続け、十字架の物語を語り、福音へと改宗者を導き、教会を設立した。……時々パウロは自分の手仕事に従事して生活費をかせいだ。しかし、自分の生活の多忙な活動すべてにおいて、パウロは一つの大きな目的—高い召しの賞与を得ようと努めるという目的を見失わなかった。彼が自分の前に堅く保ったひとつの偉大な目標—ダマスコの入口で自分にご自身をあらわして下さったお方に忠誠をつくすという、一つの目標を見失わなかった。何ものも彼をこの目的からそらす力はなかった。……

辛苦と困難に直面しながらパウロを前進させたその偉大な目標が、神の奉仕に自分のすべてをささげるよう、あらゆるクリスチャンの働き人を導かなければならない。世的な魅力が彼の注意を救い主から引き離すために提供されるが、クリスチャンの働き人は、ひたすら目標に向かって進み、神のみ顔を見る望みは、その望みを達成するために必要な努力と犠牲のすべてに値するものであることを、この世に、天使たちに、また人々に示さなければならない。(患難から栄光へ下巻 177, 178)

最も身分の低いキリストの弟子も天の住民、朽ちることなくしほむことのない資産を受け継ぐ神の相続人になることができる。ああ、一人一人が天来の賜物を選ぶことができ、その肩書きが永遠にどのような破壊者、世からも守られる神の嗣業の相続人となることができる。ああ、世を選ぶのではなく、もっと良い嗣業を選びなさい!そしてキリスト・イエスにおける、あなたへの高い召しの賞与を得ようとおすすみなさい。(クリスチャン教育の基礎 235)

まもなくわたしたちは王なるお方の戴冠式を目撃するだろう。その時、その命がキリストと共に隠されていた人々、この地上で信仰の戦いをりっぱに戦いぬいた人々は、神の王国において贖い主の栄光と共に輝き渡る。(教会への証 9 巻 287)

子を生む力でした。

この最も尊いたまものは、彼らにつきない幸せをもたらすよう意図されていました。彼らの子どもたちと、子どもの子どもたちが、これからさきずっと彼らを愛し、尊ぶために生まれるはずでした。

アダムとエバがどれくらいの子どもを産んだか、わたしたちにはわかりません。しかし、これらの遠い日のことについて教えられていることから見ますと、彼らにはたくさんのたくさんの子どもがいたことはたしかでしょう。そしてなんと輝かしく美しい子供が生まれてきたことでしょう、これらの創造主ご自身によってかたちづくられた堂々とした二人から生れた彼らですから！

丘や谷は、彼らがいっしょに野や森をはしゃぎまわり、動物の友だちと遊ぶときに、うれしい笑い声が鳴り響いたにちがいありません！まちがいに、これらのいとしい子どもたちの喜びと愛は、アダムとエバがエデンを失った悲しみの下で耐える助けとなったことでしょう。

たまねぎ餅

■材料

たまねぎ 1 個
のり 5 切れ

【A 調味料】

顆粒昆布だし 小さじ 1/2
塩 少々
片栗粉 大さじ 4

【B 調味料】

黒糖 小さじ 1
水 大さじ 1
しょうゆ 大さじ 1
ごま油 少々

■作り方

1. 玉ねぎをみじん切りにして、しんなりするまで軽く炒めます。（きつね色になる必要はありません）
2. 炒めた玉ねぎに、【A 調味料】を入れてまぜます。
3. ラップに 5 分の 1 をのせて、丸もちのようにまるめ、油（分量外）をしいたフライパンにのせていきます。
4. きつね色に焼けたら、裏に返し、両面を焼きます。
5. 焼けたら、【B 調味料】を加えて、煮からめます。
6. 出来上がったら、のりを巻いて盛りつけます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第12話

最初の赤ちゃん(1)

神さまが魚、鳥、動物を創造されたときに次のように言われました、「生めよ、ふえよ」。

このお方のご命令に答えて、まもなく川や海の中には、小さな魚から巨大なクジラやトドにいたるまで、何千もの魚の赤ちゃんがあらわれました。森の木々やかん木には、あらゆる種類や色の鳥たちが巣をつくり、卵を産み、卵からひなをかえし始めました。ちょうどその時から今にいたるまで何世紀にもわたってしてきたように。

最初の羊には最初の小さな子羊たちが生まれ、最初のクマにはやわらかい小さな子どもが生まれ、最初のゾウにはかわいい小さなゾウの赤ちゃんが生まれました。このように、すべての造られたもの全体にひろがっていきましました。全世界は一つの巨大な飼育所になり、何千もの母親と父親が自分たちの子どもを養い、訓練するために最善を尽くしていました。

アダムとエバにもまた神様は、「生めよ、ふえよ」と言われました。この

お方は彼らだけでいることを望

まれませんでした。彼らも大家族を持ち、たくさんのたくさんの男の子や女の子との交わりを楽しむようにご計画しておられました。



そのことについて考えてみますと、これはいとしい神さまの御手に造られたものたち

への神さまの愛の最大のたまものでした。自然のあらゆる美しさよりも、地にある金銀の豊かなたくわえ全部よりも、動物たちとのすべての交わりよりも良いのは、いつか親自身と同じような男女へ成長する男の子や女の

(67 ページに続く)